第３次スポーツ推進計画 Ｒ６．10改正（新旧対照表）（案）

令和6年9月2日：印刷

改　正　案	現　　行
第３次長野県スポーツ推進計画 ―　スポーツの力で切り拓く長野県の未来　― （R6.10 改正版） 令和５年(2023年)３月(策定) 令和６年(2024年)10月(改定) 長野県	第３次長野県スポーツ推進計画 ―　スポーツの力で切り拓く長野県の未来　― 令和５年(2023年)３月 長野県教育委員会
【はじめに】 【計画策定の趣旨】 本県では、平成30 年３月に策定した「第2 次長野県スポーツ推進計画」（H30～R4）を指針として、子どもの体力向上、ライフスタイルや価値観に応じた「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進、2028 年に本県で開催する「第82 回国民スポーツ大会・第27 回全国障害者スポーツ大会」（信州やまなみ国スポ・全障スポ）に向けた競技力の向上とその定着、スポーツによる地域経済の活性化など、様々な施策を通して「スポーツを通じた元気な長野県づくり」に取り組んできました。 第２次計画期間中には様々な社会状況の変化がありました。特に、令和2年から急速に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、あらゆる世代のスポーツ活動が大きな制限を受け、体力の低下やストレスの増加、スポーツを核にした地域における交流の不足など、我々の日常生活に多大な悪影響を及ぼしました。一方で、その反射的な効果として、スポーツには、日々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた力や価値があることを再認識することとなりました。 自発的なスポーツへの参画を通じて「楽しさ」や「喜び」を得ることは、県民一人ひとりの生活や心をより豊かにするといった「ウェルビーイング*」の実現につながるものであります。このような、スポーツの持つ力や価値を発揮し更に高めていくために、今後5 年間において、本県が推進していくスポーツの施策を明らかにするべく、新たに「第3 次長野県スポーツ推進計画」を策定しました。	【はじめに】 【計画策定の趣旨】 本県では、平成30 年３月に策定した「第2 次長野県スポーツ推進計画」（H30～R4）を指針として、子どもの体力向上、ライフスタイルや価値観に応じた「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進、2028 年に本県で開催する「第82 回国民スポーツ大会・第27 回全国障害者スポーツ大会」（信州やまなみ国スポ・全障スポ）に向けた競技力の向上とその定着、スポーツによる地域経済の活性化など、様々な施策を通して「スポーツを通じた元気な長野県づくり」に取り組んできました。 第２次計画期間中には様々な社会状況の変化がありました。特に、令和2年から急速に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、あらゆる世代のスポーツ活動が大きな制限を受け、体力の低下やストレスの増加、スポーツを核にした地域における交流の不足など、我々の日常生活に多大な悪影響を及ぼしました。一方で、その反射的な効果として、スポーツには、日々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた力や価値があることを再認識することとなりました。 自発的なスポーツへの参画を通じて「楽しさ」や「喜び」を得ることは、県民一人ひとりの生活や心をより豊かにするといった「ウェルビーイング*」の実現につながるものであります。このような、スポーツの持つ力や価値を発揮し更に高めていくために、今後5 年間において、本県が推進していくスポーツの施策を明らかにするべく、新たに「第3 次長野県スポーツ推進計画」を策定しました。
【計画の位置付け】	【計画の位置付け】

改　正　案	現　　行
本計画は、スポーツ基本法第10 条第１項において、国のスポーツ基本計画（第３期スポーツ基本計画）を参酌してその地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものと規定された「地方スポーツ推進計画」です。 また、「長野県総合５か年計画」及び「第４次長野県教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画として位置付け、今後のスポーツ振興のために必要な具体的施策を定めたスポーツ推進計画です。 なお、第２次計画は、「第82 回国民スポーツ大会・第27 回全国障害者スポーツ大会」の本県開催が10 年後に内々定したことを受け、両大会の開催に向けて「10 年後の目指す姿を見据えた前半５年間の計画」として策定したことから、本計画は、第２次計画で設定した目指す姿や基本目標等をベースとしたうえで、社会状況の変化や新たな課題に対応し、両大会終了後のスポーツ振興も見据えた計画としました。 **【計画期間】** 令和5 年度（2023 年度）を初年度とし、令和9 年度（2027 年度）を目標年度とする5 年間を対象とします。 **【当初計画の改定について】** 本計画は、令和５年３月に今後５か年の計画として、当初策定されました。 しかし、当初計画策定後、令和６年３月「長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針」及び「長野県地域クラブ活動推進ガイドライン」の策定や、全国中学校体育大会において令和９年度以降一部競技の廃止が決定されるなど、スポーツ環境に大きな変化が起きています。 また、県行政においても、県内人口が200万人を下回り、人口減少・少子高齢化が顕著化してきており、大きな地域課題となってきています。 そこで、中間的見直しとして、当初計画策定後の状況の変化を踏まえ、令和６年●月に計画を改定しました。	本計画は、スポーツ基本法第10 条第１項において、国のスポーツ基本計画（第３期スポーツ基本計画）を参酌してその地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものと規定された「地方スポーツ推進計画」です。 また、「長野県総合５か年計画」及び「第４次長野県教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画として位置付け、今後のスポーツ振興のために必要な具体的施策を定めたスポーツ推進計画です。 なお、第２次計画は、「第82 回国民スポーツ大会・第27 回全国障害者スポーツ大会」の本県開催が10 年後に内々定したことを受け、両大会の開催に向けて「10 年後の目指す姿を見据えた前半５年間の計画」として策定したことから、本計画は、第２次計画で設定した目指す姿や基本目標等をベースとしたうえで、社会状況の変化や新たな課題に対応し、両大会終了後のスポーツ振興も見据えた計画としました。 **【計画期間】** 令和5 年度（2023 年度）を初年度とし、令和9 年度（2027 年度）を目標年度とする5 年間を対象とします。 **（新規）**
Ｐ２	Ｐ２
【第１章　現状と課題】 **１．１　「子どもの運動・スポーツ機会の充実の現状と課題」**	**【第１章　現状と課題】** **１．１　「子どもの運動・スポーツ機会の充実の現状と課題」**

改　正　案

【１．１．１　これまでの取組状況】

【第２次計画での主な取組】

・幼児期からの運動遊びの推進
・少子化等を背景とした合同部活や地域スポーツ団体との連携など多様な運動部活動の推進
・特に運動時間の少ない中学生女子を対象とした授業改善や「ゆる部活*」等の導入支援
・多様なニーズのある子どもの受け皿となる地域のスポーツクラブとの連携

【第２次計画の達成目標の状況】

指標名		単位	基準値(H29年度)	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		R4年度	目標値(R4年度)
				目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	実績値	
体力合計点*(小中男女合計平均)		点	50.4	50.8	51.0	51.1	50.4	51.4	調査中止	51.7	49.5	49.0	52点
運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合(中学生女子)		%	78.7	79.2	78.9	79.4	79.1	79.6		79.8	75.4	77.2	80%
体育授業以外の1週間の運動実施時間が60分未満の子どもの割合	小学生男子	%	7.9	7.6	8.0	7.2	8.4	6.8		6.4	8.6	8.9	6%以下
	小学生女子	%	16.4	15.2	16.3	13.9	16.8	12.6		11.3	15.6	16.7	10%以下
	中学生男子	%	7.3	7.2	6.9	6.9	8.4	6.6		6.3	8.2	8.1	6%以下
	中学生女子	%	23.6	22.8	22.6	22.1	24.1	21.4		20.7	19.4	18.2	20%以下

※R2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止

【１．１．２　主な課題】

○　子どもの体力向上

近年、小・中学校男女の体力合計点は全国的に低下しており、本県でも同様の傾向にあります。体力は人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、豊かな人間性や自ら学び自ら考える力といった「生きる力」の重要な要素となるものであることから、子どもが自ら進んで動きたくなるような取組や環境整備等により、本県の子どもの体力向上を継続的に図っていく必要があります。

現　　行

【１．１．１　これまでの取組状況】

【第２次計画での主な取組】

・幼児期からの運動遊びの推進
・少子化等を背景とした合同部活や地域スポーツ団体との連携など多様な運動部活動の推進
・特に運動時間の少ない中学生女子を対象とした授業改善や「ゆる部活*」等の導入支援
・多様なニーズのある子どもの受け皿となる地域のスポーツクラブとの連携

【第２次計画の達成目標の状況】

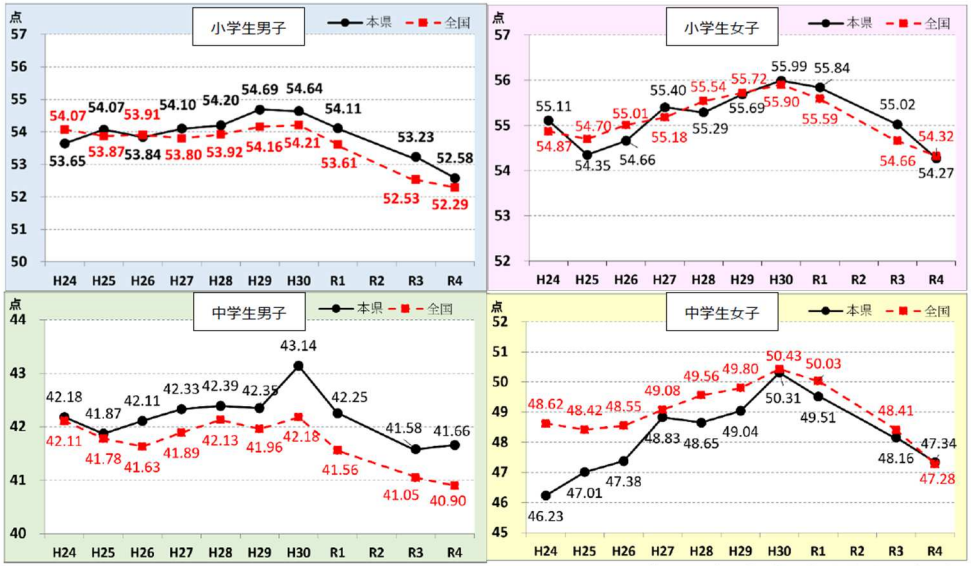
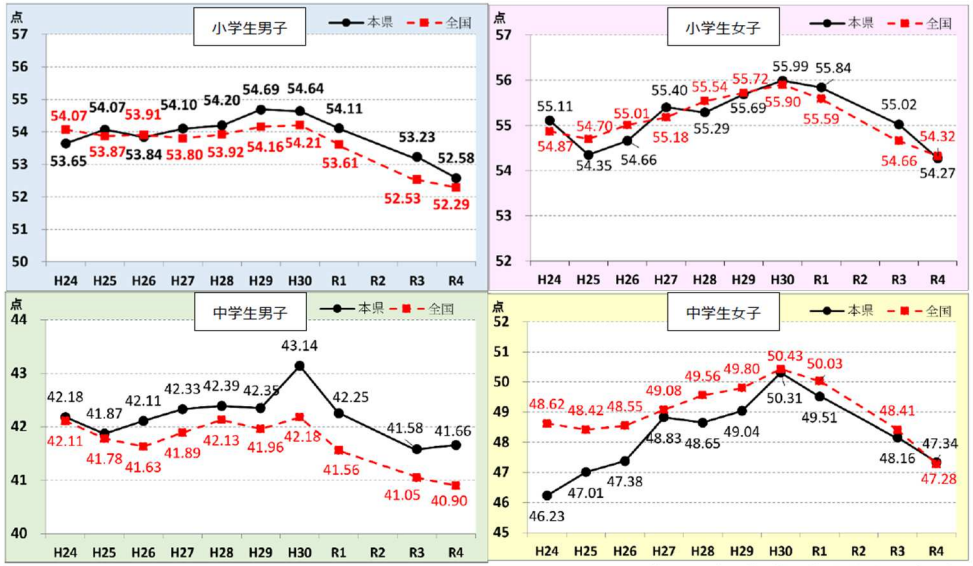
指標名		単位	基準値(H29年度)	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		R4年度	目標値(R4年度)
				目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	実績値	
体力合計点*(小中男女合計平均)		点	50.4	50.8	51.0	51.1	50.4	51.4	調査中止	51.7	49.5	49.0	52点
運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合(中学生女子)		%	78.7	79.2	78.9	79.4	79.1	79.6		79.8	75.4	77.2	80%
体育授業以外の1週間の運動実施時間が60分未満の子どもの割合	小学生男子	%	7.9	7.6	8.0	7.2	8.4	6.8		6.4	8.6	8.9	6%以下
	小学生女子	%	16.4	15.2	16.3	13.9	16.8	12.6		11.3	15.6	16.7	10%以下
	中学生男子	%	7.3	7.2	6.9	6.9	8.4	6.6		6.3	8.2	8.1	6%以下
	中学生女子	%	23.6	22.8	22.6	22.1	24.1	21.4		20.7	19.4	18.2	20%以下

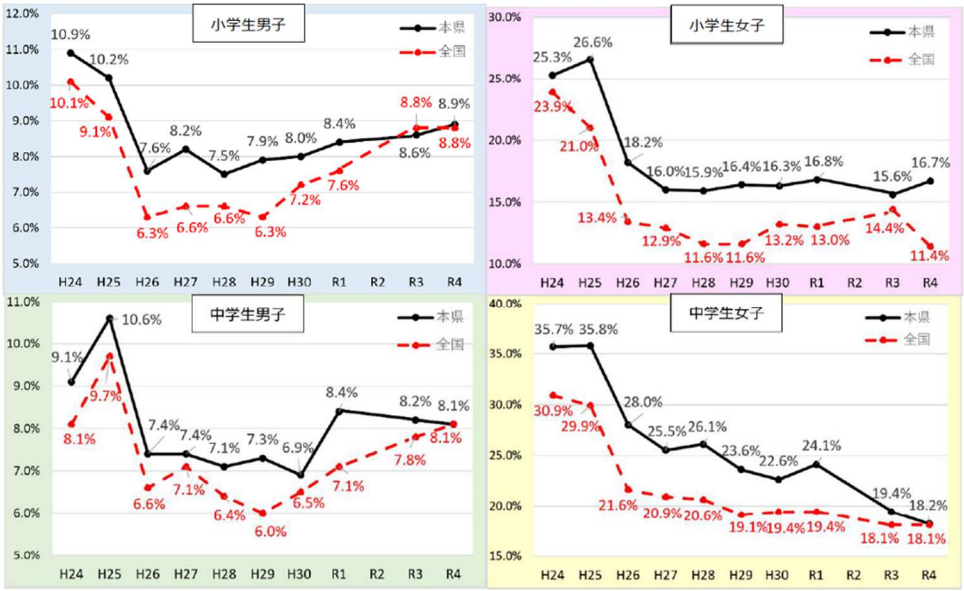
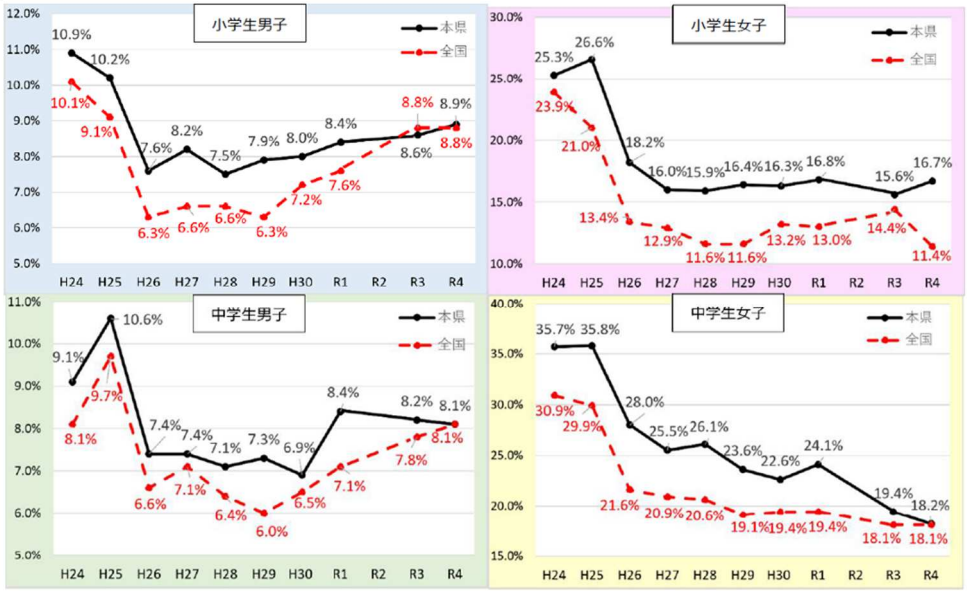
※R2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止

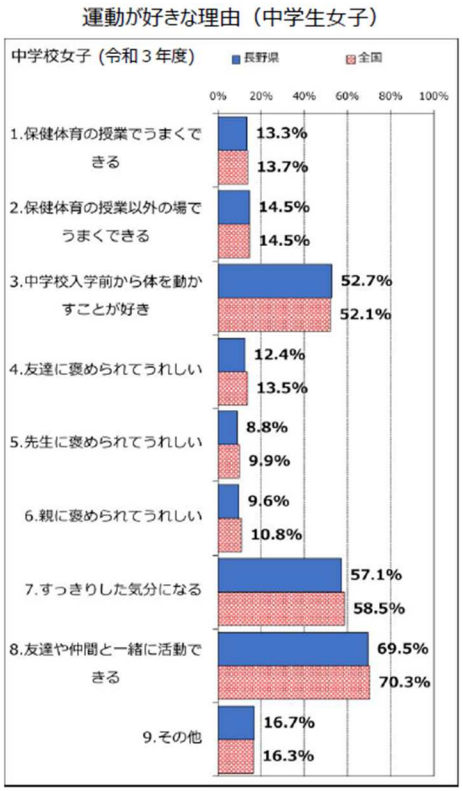
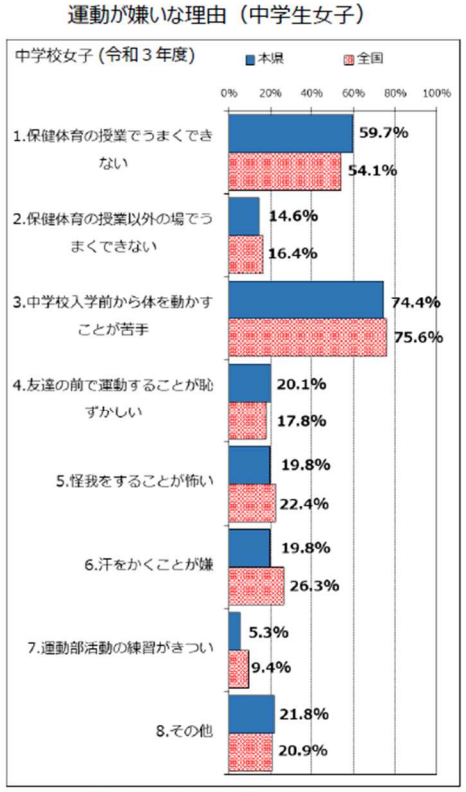
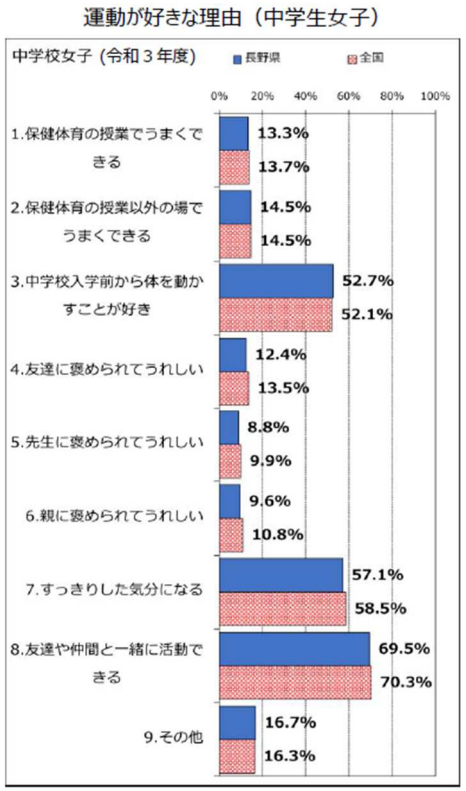
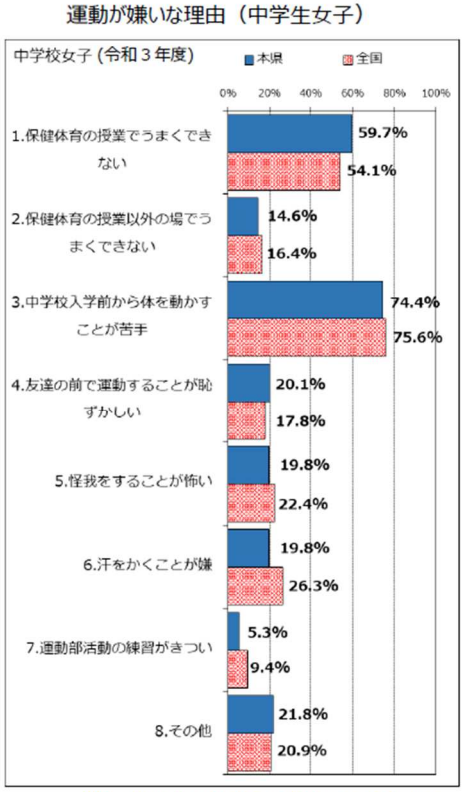
【１．１．２　主な課題】

○　子どもの体力向上

近年、小・中学校男女の体力合計点は全国的に低下しており、本県でも同様の傾向にあります。体力は人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、豊かな人間性や自ら学び自ら考える力といった「生きる力」の重要な要素となるものであることから、子どもが自ら進んで動きたくなるような取組や環境整備等により、本県の子どもの体力向上を継続的に図っていく必要があります。

改　正　案	現　　行
○ 運動をする子どもとしない子どもの二極化 本県の小中学生の体育の授業時間を除いた総運動時間は、全国平均と比べると低い水準にあります。特に中学生の女子は、近年改善の傾向は見られるものの、依然として約2 割が1 週間にほとんど運動をしていない状況にあるなど、運動をする子どもとしない子どもの二極化が顕著となっています。 体力合計点の推移  １週間の総運動時間が60 分未満の児童生徒の推移	○ 運動をする子どもとしない子どもの二極化 本県の小中学生の体育の授業時間を除いた総運動時間は、全国平均と比べると低い水準にあります。特に中学生の女子は、近年改善の傾向は見られるものの、依然として約2 割が1 週間にほとんど運動をしていない状況にあるなど、運動をする子どもとしない子どもの二極化が顕著となっています。 体力合計点の推移  １週間の総運動時間が60 分未満の児童生徒の推移

改　正　案	現　　行
 出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）	 出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）
○ 運動嫌いを生まないための工夫 児童生徒の運動が嫌いな理由の多くは「保健体育の授業でうまくできないから」であり、「上手にやるやり方」に特化することなく、「仲間と共に運動する心地よさ」を味わえる授業を推進し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実することが求められています。	○ 運動嫌いを生まないための工夫 児童生徒の運動が嫌いな理由の多くは「保健体育の授業でうまくできないから」であり、「上手にやるやり方」に特化することなく、「仲間と共に運動する心地よさ」を味わえる授業を推進し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実することが求められています。

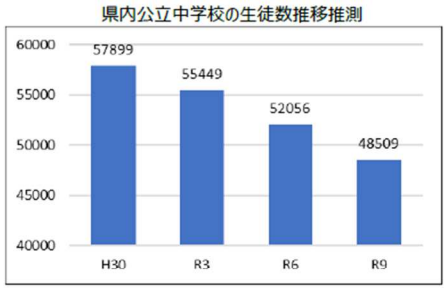
改　正　案	現　　行
  出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）	  出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）
○ 公立中学校等における学校部活動の地域クラブ活動への移行等 少子化の進展、専門性のある指導者の不足、部活動指導による教員の長時間勤務の問題等により、今まで学校が主体として担ってきた部活動の形態を見直し、地域が主体となる新たなスポーツ環境の整備を目指すことが必要となっています。 文部科学省では、令和５年から令和７年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指すよう、各自治体に求めています。	○ 公立中学校等における学校部活動の地域クラブ活動への移行等 少子化の進展、専門性のある指導者の不足、部活動指導による教員の長時間勤務の問題等により、今まで学校が主体として担ってきた部活動の形態を見直し、地域が主体となる新たなスポーツ環境の整備を目指すことが必要となっています。
○ 全国中学校体育大会における競技種目の廃止	（新規）

改　正　案	現　　行

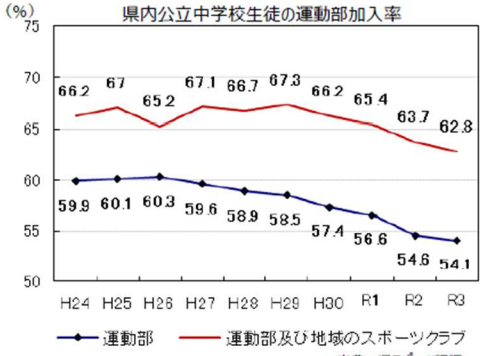
日本中学校体育連盟は、全国中学校体育大会において、令和９年度以降、水泳、ハンドボール、体操、新体操、ソフトボール男子、相撲、スキー、スケート、アイスホッケーの９競技を開催しないと発表しました。（スキーは令和12年度以降）

○ 子どもの地域スポーツ環境の整備

総合型地域スポーツクラブ*やスポーツ少年団*等、地域におけるスポーツ活動を充実させ、幼児期の子どもや運動を得意としない子ども、障がいのある子ども等を含めた多様な子どもが参加しやすい環境を整備することが求められています。



出典：長野県中学校体育連盟調



出典：県スポーツ課調

県内公立中学校運動部顧問職員の競技経験（令和３年度）

担当競技の経験あり	担当競技の経験なし		
	担当競技以外の経験あり	運動経験なし	計
39%	46%	15%	61%

出典：県スポーツ課調

○ 運動・スポーツをすることの意義の啓発

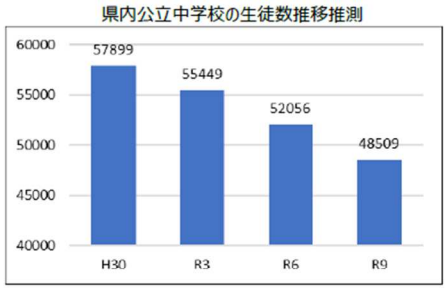
運動は単に「体力」や「技術力」を向上させるためだけに必要なものではなく、散策や徒歩通学などの軽度の運動も、質の良い睡眠、美味しい食事、美容や健康増進等に大きく関係していることを学び、運動やスポーツをすることが大切であることを実感できる健康教育の充実を図る必要があります。

○ 障がいのある子どものスポーツ環境の整備（共生社会の実現）

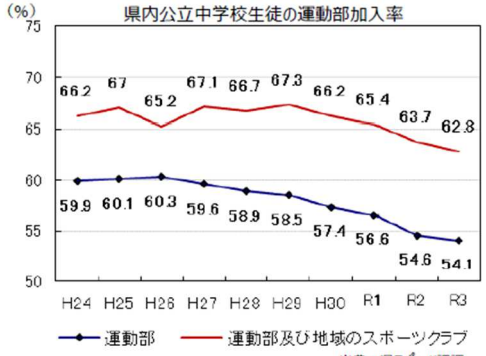
障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流等により、障が

○ 子どもの地域スポーツ環境の整備

総合型地域スポーツクラブ*やスポーツ少年団*等、地域におけるスポーツ活動を充実させ、幼児期の子どもや運動を得意としない子ども、障がいのある子ども等を含めた多様な子どもが参加しやすい環境を整備することが求められています。



出典：長野県中学校体育連盟調



出典：県スポーツ課調

県内公立中学校運動部顧問職員の競技経験（令和３年度）

担当競技の経験あり	担当競技の経験なし		
	担当競技以外の経験あり	運動経験なし	計
39%	46%	15%	61%

出典：県スポーツ課調

○ 運動・スポーツをすることの意義の啓発

運動は単に「体力」や「技術力」を向上させるためだけに必要なものではなく、散策や徒歩通学などの軽度の運動も、質の良い睡眠、美味しい食事、美容や健康増進等に大きく関係していることを学び、運動やスポーツをすることが大切であることを実感できる健康教育の充実を図る必要があります。

○ 障がいのある子どものスポーツ環境の整備（共生社会の実現）

障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流等により、障が

改　正　案	現　　行

いのある子どもとない子どもが一緒に運動する機会をより一層充実させるとともに、障がい者スポーツに対する理解の促進を図る必要があります。

障がい者スポーツ（パラスポーツ）に関する意識調査　（令和元年度）

	質 問 項 目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	パラスポーツは障がいの有無や年齢、性別などを問わず、みんなで楽しみながら行うことができる	29.9%	39.1%	25.0%	3.4%	2.6%
2	パラスポーツの普及は社会的問題（施設のバリアフリー化、平等･公平な社会の実現など）の解決につながる	24.4%	41.6%	28.1%	3.4%	2.5%
3	パラスポーツを体験することによって、障がいのある人に対する理解が深まる	28.9%	41.4%	24.2%	3.0%	2.5%

○ 感染症対策とスポーツ活動の両立

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校体育や運動部活動等のスポーツ活動が大きな制限を受けましたが、このような状況下においても、ICT の活用等により、感染症対策を講じた上でスポーツ活動を継続していくための工夫が求められています。

いのある子どもとない子どもが一緒に運動する機会をより一層充実させるとともに、障がい者スポーツに対する理解の促進を図る必要があります。

障がい者スポーツ（パラスポーツ）に関する意識調査　（令和元年度）

	質 問 項 目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	パラスポーツは障がいの有無や年齢、性別などを問わず、みんなで楽しみながら行うことができる	29.9%	39.1%	25.0%	3.4%	2.6%
2	パラスポーツの普及は社会的問題（施設のバリアフリー化、平等･公平な社会の実現など）の解決につながる	24.4%	41.6%	28.1%	3.4%	2.5%
3	パラスポーツを体験することによって、障がいのある人に対する理解が深まる	28.9%	41.4%	24.2%	3.0%	2.5%

○ 感染症対策とスポーツ活動の両立

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校体育や運動部活動等のスポーツ活動が大きな制限を受けましたが、このような状況下においても、ICT の活用等により、感染症対策を講じた上でスポーツ活動を継続していくための工夫が求められています。

Ｐ６

１．２　「生涯を通じたスポーツ機会の充実」の現状と課題

【１．２．１　これまでの取組状況】

【第２次計画での主な取組】

・「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と定着化
・スポーツ推進委員*や、総合型地域スポーツクラブなど地域のスポーツクラブの連携
・県立武道館*を核とした武道振興
・地域のスポーツクラブと連携した障がい者スポーツの振興

【第２次計画の達成目標の状況】

Ｐ６

１．２　「生涯を通じたスポーツ機会の充実」の現状と課題

【１．２．１　これまでの取組状況】

【第２次計画での主な取組】

・「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と定着化
・スポーツ推進委員*や、総合型地域スポーツクラブなど地域のスポーツクラブの連携
・県立武道館*を核とした武道振興
・地域のスポーツクラブと連携した障がい者スポーツの振興

【第２次計画の達成目標の状況】

改　正　案

指標名	単位	基準値（H29年度）	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		目標値（R4年度）
			目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	
運動・スポーツ実施率（成人の週1日以上）	%	48.1	52.4	56.3	55.6	57.1	58.1	57.3	61.9	60.8	65.0
直接スポーツ観戦率	%	13.0	13.7	11.7	14.0	8.9	14.4	7.7	14.7	8.0	15.0
スポーツボランティア参加率	%	8.2	8.4	5.2	8.8	5.5	9.2	4.4	9.6	4.2	10.0
地域のスポーツクラブ(※)への加入率	%	9.9	11.0	10.1	12.0	9.6	13.0	9.2	14.0	8.7	15.0
障がいのある人が参加するプログラムを行っている総合型地域スポーツクラブの割合	%	13.2	20.0	20.9	27.5	21.2	35.0	29.9	42.5	26.9	50.0

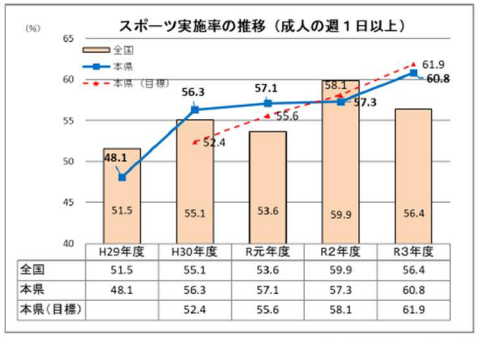
※「地域のスポーツクラブ」・・・総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、各種のスポーツクラブ（学校の運動部活動を除く）

【１．２．２　主な課題】

○ スポーツ参画人口の拡大（「する」「みる」「ささえる」スポーツ）

成人の週１日以上のスポーツ実施率（「する」スポーツ）は、平成29年度以降上昇傾向にあり、令和3 年度には初めて6 割を超えました。

一方で、直接スポーツ観戦率（「みる」スポーツ）及びスポーツボランティア参加率（「ささえる」スポーツ）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により、共に1割を下回っている状況です。



出典：県政モニターアンケート

現　　行

指標名	単位	基準値（H29年度）	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		目標値（R4年度）
			目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	
運動・スポーツ実施率（成人の週1日以上）	%	48.1	52.4	56.3	55.6	57.1	58.1	57.3	61.9	60.8	65.0
直接スポーツ観戦率	%	13.0	13.7	11.7	14.0	8.9	14.4	7.7	14.7	8.0	15.0
スポーツボランティア参加率	%	8.2	8.4	5.2	8.8	5.5	9.2	4.4	9.6	4.2	10.0
地域のスポーツクラブ(※)への加入率	%	9.9	11.0	10.1	12.0	9.6	13.0	9.2	14.0	8.7	15.0
障がいのある人が参加するプログラムを行っている総合型地域スポーツクラブの割合	%	13.2	20.0	20.9	27.5	21.2	35.0	29.9	42.5	26.9	50.0

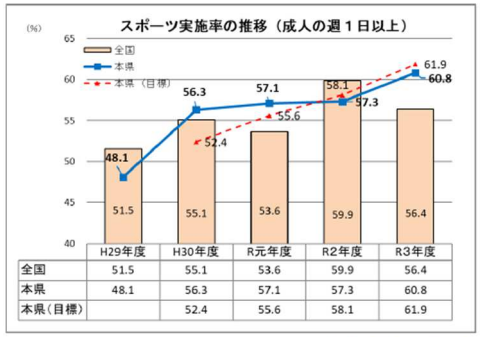
※「地域のスポーツクラブ」・・・総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、各種のスポーツクラブ（学校の運動部活動を除く）

【１．２．２　主な課題】

○ スポーツ参画人口の拡大（「する」「みる」「ささえる」スポーツ）

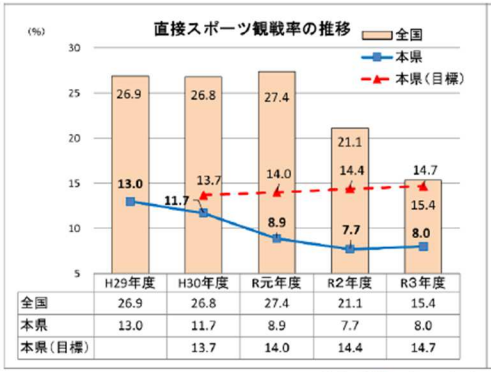
成人の週１日以上のスポーツ実施率（「する」スポーツ）は、平成29年度以降上昇傾向にあり、令和3 年度には初めて6 割を超えました。

一方で、直接スポーツ観戦率（「みる」スポーツ）及びスポーツボランティア参加率（「ささえる」スポーツ）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により、共に1割を下回っている状況です。

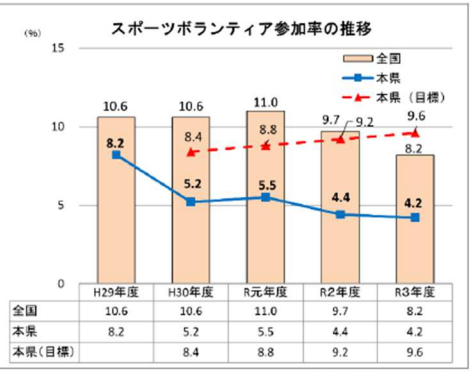


出典：県政モニターアンケート

改　正　案



出典：県政モニターアンケート



出典：県政モニターアンケート

○ 身近な場所でスポーツに親しめる環境の整備

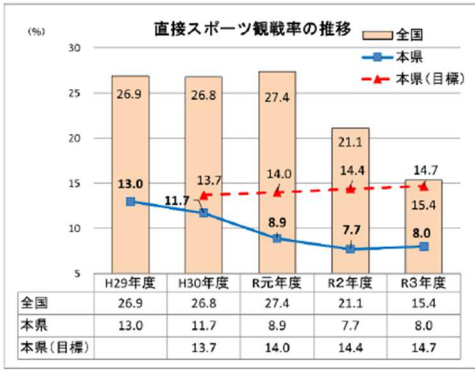
誰もが気軽にスポーツに参画できる機会を充実させるため、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブなどの地域のスポーツクラブと連携して、スポーツ機会の創出や周知を促進する必要があります。

○ 地域のスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団等）の活性化

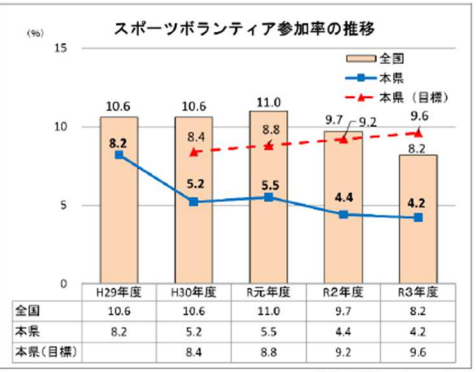
あらゆる世代のスポーツ機会の確保、学校部活動の地域クラブ活動への移行など、地域のスポーツクラブが期待される役割が大きくなっています。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、総合型地域スポーツクラブの会員数は令和２年度に大きく減少しました。各関係団体が連携し、地域スポーツ振興の担い手となる地域のスポーツクラブの活動を活性化させる必要があります。

現　　行



出典：県政モニターアンケート



出典：県政モニターアンケート

○ 身近な場所でスポーツに親しめる環境の整備

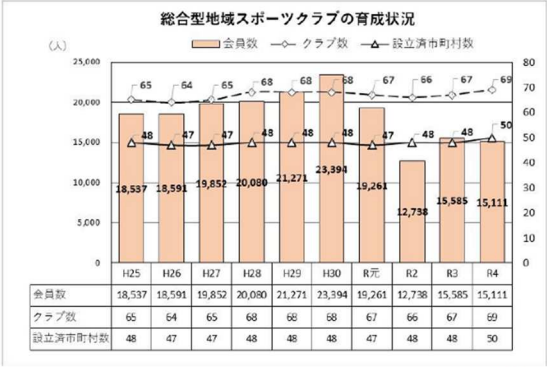
誰もが気軽にスポーツに参画できる機会を充実させるため、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブなどの地域のスポーツクラブと連携して、スポーツ機会の創出や周知を促進する必要があります。

○ 地域のスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団等）の活性化

あらゆる世代のスポーツ機会の確保、学校部活動の地域クラブ活動への移行など、地域のスポーツクラブが期待される役割が大きくなっています。

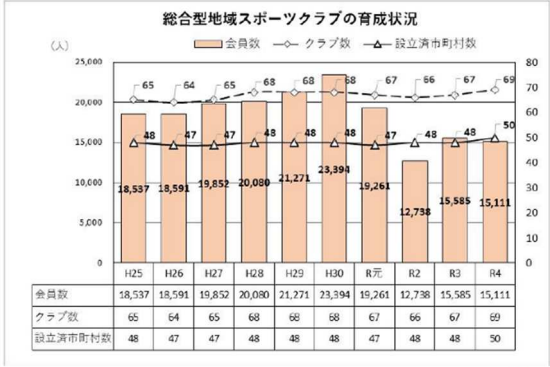
一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、総合型地域スポーツクラブの会員数は令和２年度に大きく減少しました。各関係団体が連携し、地域スポーツ振興の担い手となる地域のスポーツクラブの活動を活性化させる必要があります。

改　正　案	現　　行



	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
会員数	18,537	18,591	19,852	20,080	21,271	23,394	19,261	12,738	15,585	15,111
クラブ数	65	64	65	68	68	68	67	66	67	69
設立済市町村数	48	47	47	48	48	48	47	48	48	50

出典：県スポーツ課調

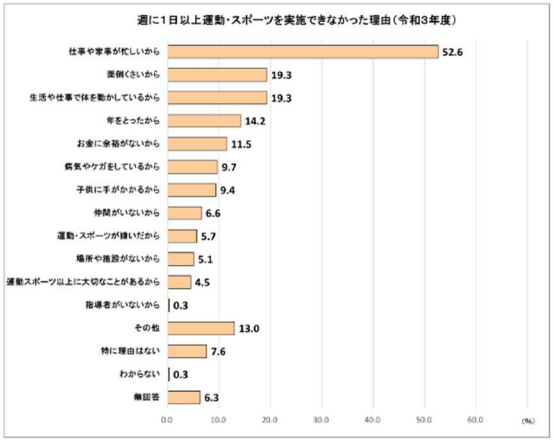


	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
会員数	18,537	18,591	19,852	20,080	21,271	23,394	19,261	12,738	15,585	15,111
クラブ数	65	64	65	68	68	68	67	66	67	69
設立済市町村数	48	47	47	48	48	48	47	48	48	50

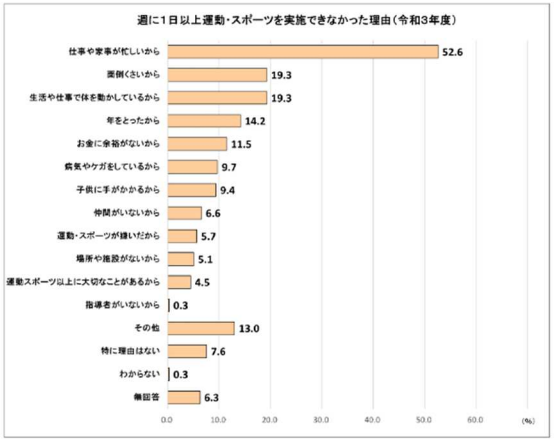
出典：県スポーツ課調

○ 働く世代・子育て世代のスポーツ参加

運動・スポーツを週に1 日以上できなかった理由は「仕事や家事が忙しいから」が最も多くなっており、働く世代や子育て世代がスポーツに参加しやすくなるような工夫が必要です。



出典：県政モニターアンケート



出典：県政モニターアンケート

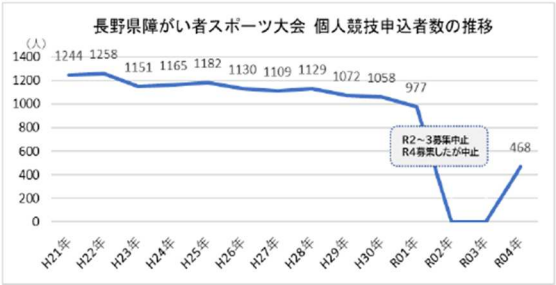
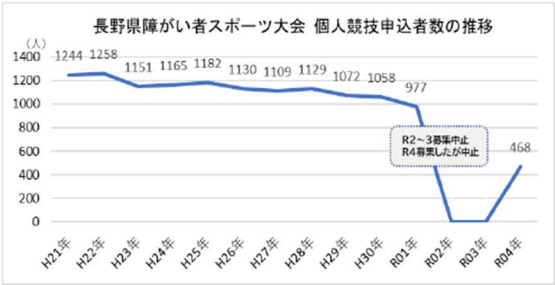
○ 女性のスポーツ参加

成人の週１日以上のスポーツ実施率（「する」スポーツ）において、男女別の令和５年度調査では、男性49.4%、女性42.8%であり、女性のスポーツ参加率が低い傾向があります。

女性のスポーツ参加にあたっては、「女性アスリートの三主徴」等の健

（新規）

（新規）

改　正　案	現　　行
康上の課題が指摘されており、このことはトップアスリートのみならず、10代の女性アスリートにも多くの兆候が見られると指摘されています。	
○ 誰もが安全に利用できるスポーツ施設の整備（ユニバーサルデザイン、適切な維持管理、施設の長寿命化） スポーツ施設や公園施設などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められていることから、必要な改修を計画的に進めていくとともに、誰もが安心してスポーツ活動に取り組めるよう、バリアフリー化やユニバーサルデザイン化を促進していく必要があります。 令和２年３月に開館した長野県立武道館（佐久市）	**○ 誰もが安全に利用できるスポーツ施設の整備（ユニバーサルデザイン、適切な維持管理、施設の長寿命化）** スポーツ施設や公園施設などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められていることから、必要な改修を計画的に進めていくとともに、誰もが安心してスポーツ活動に取り組めるよう、バリアフリー化やユニバーサルデザイン化を促進していく必要があります。 令和２年３月に開館した長野県立武道館（佐久市）
○ 障がい者スポーツの参加機会の拡大と理解促進（共生社会の実現） 障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会等を通じて、障がい者スポーツの参加機会の拡大や理解の促進を図り、全ての県民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、支え合い、活かし合う共生社会づくりに取り組む必要があります。  ボッチャ競技大会「パラウェーブ NAGANO カップ」の様子	**○ 障がい者スポーツの参加機会の拡大と理解促進（共生社会の実現）** 障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会等を通じて、障がい者スポーツの参加機会の拡大や理解の促進を図り、全ての県民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、支え合い、活かし合う共生社会づくりに取り組む必要があります。  ボッチャ競技大会「パラウェーブ NAGANO カップ」の様子
○ 感染症対策等の制限下におけるスポーツ活動 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一時はスポーツ活動が大き	**○ 感染症対策等の制限下におけるスポーツ活動** 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一時はスポーツ活動が大き

改　正　案	現　　行
く制限を受けましたが、スポーツ活動は日々の生活や社会に活力を与える重要な要素であることから、スポーツ施設における国や県の対応方針等に基づいた対策の徹底や、リモート等を活用したスポーツの場の提供等により、スポーツ活動を維持していく必要があります。 リモートを活用したトレーニングの様子（SWAN プロジェクト	く制限を受けましたが、スポーツ活動は日々の生活や社会に活力を与える重要な要素であることから、スポーツ施設における国や県の対応方針等に基づいた対策の徹底や、リモート等を活用したスポーツの場の提供等により、スポーツ活動を維持していく必要があります。 リモートを活用したトレーニングの様子（SWAN プロジェクト
P 10	P 10
１．３　「全国や世界で活躍する選手の育成」の現状と課題 **【１．３．１　これまでの取組状況】** **【第２次計画での主な取組】** ・2028 年の国スポ開催を見据え、関係団体で構成する「競技力向上対策本部*」の設置と「競技力向上基本計画*」の策定 ・指導者の育成と確保対策の強化 ・ジュニア選手の発掘・育成、女性アスリート支援、異種競技間の交流 ・長野県で育った選手が指導者となり、将来の本県のスポーツ振興を支える好循環を創出 ・アスリート等の県内就職を支援する「長野県アスリート就職支援事業*」の強化 **【第２次計画の達成目標の状況】**	**１．３　「全国や世界で活躍する選手の育成」の現状と課題** **【１．３．１　これまでの取組状況】** **【第２次計画での主な取組】** ・2028 年の国スポ開催を見据え、関係団体で構成する「競技力向上対策本部*」の設置と「競技力向上基本計画*」の策定 ・指導者の育成と確保対策の強化 ・ジュニア選手の発掘・育成、女性アスリート支援、異種競技間の交流 ・長野県で育った選手が指導者となり、将来の本県のスポーツ振興を支える好循環を創出 ・アスリート等の県内就職を支援する「長野県アスリート就職支援事業*」の強化 **【第２次計画の達成目標の状況】**

改　正　案

指標名		単位	基準値(H29年度)	H30年度 目安値	H30年度 実績値	R元年度 目安値	R元年度 実績値	R2年度 目安値	R2年度 実績値	R3年度 目安値	R3年度 実績値	R4年度 実績値	目標値(R4年度)
国民体育大会	男女総合(天皇杯)順位	位	18	15	13	13	16	13	R5に延期	12	中止	15	10位以内
	冬季大会順位	位	1	1	1	1	2	1	2	1	2	2	1位
	本大会順位	位	45	38	32	30	35	25	R5に延期	21	中止	34	20位台
国民体育大会(少年)・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の入賞数		人・団体	218人・団体	220	256	227	215	234	(109)※1	242	(227)※2	254	250人・団体
北京冬季オリンピック(2022年)でSWAN*からメダリスト輩出		人	-	-	-	-	-	-	-	-	0(出場3人)	-	1人以上
ブロック予選を突破して全国障害者スポーツ大会に出場する団体競技数(障がい種別、男女別)		競技	0	-	0	1	0	2	0(R5に延期)	3	0(本大会中止)	1	4競技

※1冬季国体、冬季IHのみ　※2夏季国体除く

現　　行

指標名		単位	基準値(H29年度)	H30年度 目安値	H30年度 実績値	R元年度 目安値	R元年度 実績値	R2年度 目安値	R2年度 実績値	R3年度 目安値	R3年度 実績値	R4年度 実績値	目標値(R4年度)
国民体育大会	男女総合(天皇杯)順位	位	18	15	13	13	16	13	R5に延期	12	中止	15	10位以内
	冬季大会順位	位	1	1	1	1	2	1	2	1	2	2	1位
	本大会順位	位	45	38	32	30	35	25	R5に延期	21	中止	34	20位台
国民体育大会(少年)・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の入賞数		人・団体	218人・団体	220	256	227	215	234	(109)※1	242	(227)※2	254	250人・団体
北京冬季オリンピック(2022年)でSWAN*からメダリスト輩出		人	-	-	-	-	-	-	-	-	0(出場3人)	-	1人以上
ブロック予選を突破して全国障害者スポーツ大会に出場する団体競技数(障がい種別、男女別)		競技	0	-	0	1	0	2	0(R5に延期)	3	0(本大会中止)	1	4競技

※1冬季国体、冬季IHのみ　※2夏季国体除く

【１．３．２ 主な課題】

○ 選手の育成・強化体制の整備

本県の国民体育大会での成績は、冬季国体ではトップレベルを維持していますが、本大会では低迷が続いており、2028 年に本県で開催する信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて、より一層、選手の育成・強化に取り組む必要があります。

また、全国障害者スポーツ大会の団体競技の中には、県内にチームが存在せず、現在も大会への地区予選に出場ができない種目があります。2028 年の信州やまなみ全障スポに向け、本県選手が活躍できるよう、未設置の競技団体設立のための支援や競技力向上のため選手の発掘・育成に取り組む必要があります。

【2028 年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて】

・本県の第77 回大会（令和4 年）の成績は、天皇杯（男女総合成績）は15 位、皇后杯（女子総合成績）は13 位と、2028 年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得に向けて、徐々に成績が上がりつつあります。

・直近5 大会の種別得点推移を見ると、少年男子・女子の獲得点はおおよそ右肩上がりで推移していますが、成年男子・女子はやや伸び悩んでいることが見て取れます。

【１．３．２ 主な課題】

○ 選手の育成・強化体制の整備

本県の国民体育大会での成績は、冬季国体ではトップレベルを維持していますが、本大会では低迷が続いており、2028 年に本県で開催する信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて、より一層、選手の育成・強化に取り組む必要があります。

また、全国障害者スポーツ大会の団体競技の中には、県内にチームが存在せず、現在も大会への地区予選に出場ができない種目があります。2028 年の信州やまなみ全障スポに向け、本県選手が活躍できるよう、未設置の競技団体設立のための支援や競技力向上のため選手の発掘・育成に取り組む必要があります。

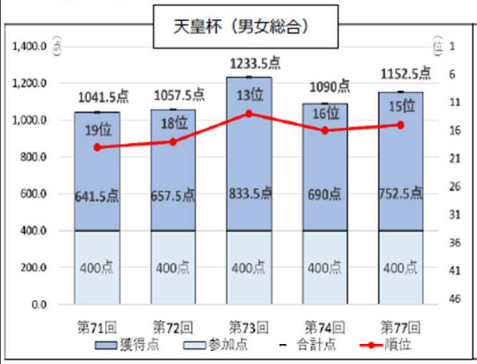
【2028 年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて】

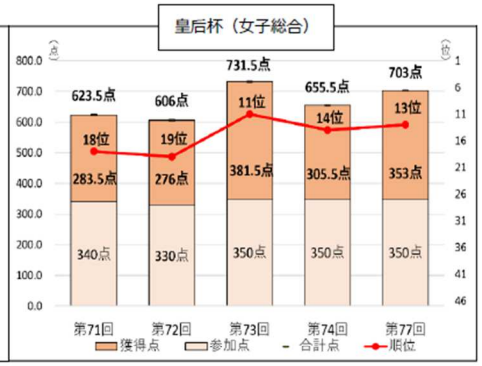
・本県の第77 回大会（令和4 年）の成績は、天皇杯（男女総合成績）は15 位、皇后杯（女子総合成績）は13 位と、2028 年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得に向けて、徐々に成績が上がりつつあります。

・直近5 大会の種別得点推移を見ると、少年男子・女子の獲得点はおおよそ右肩上がりで推移していますが、成年男子・女子はやや伸び悩んでいることが見て取れます。

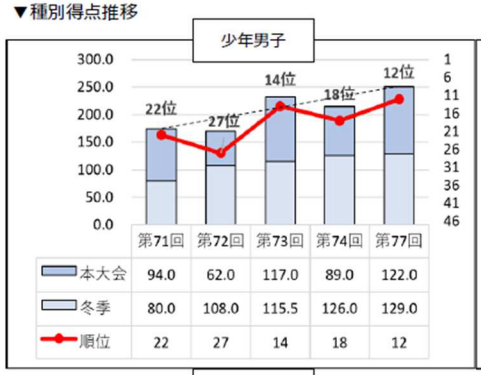
改　正　案	現　　行
・信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて、成年男子・女子のさらなる強化が必要となります。	・信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて、成年男子・女子のさらなる強化が必要となります。

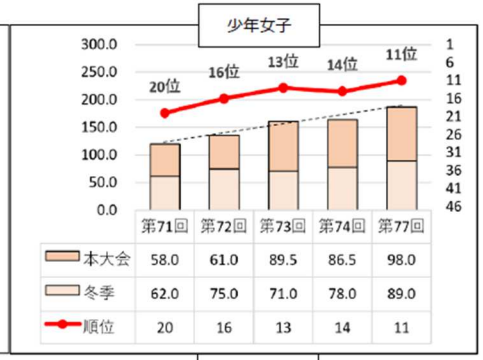
▼天皇杯・皇后杯比較

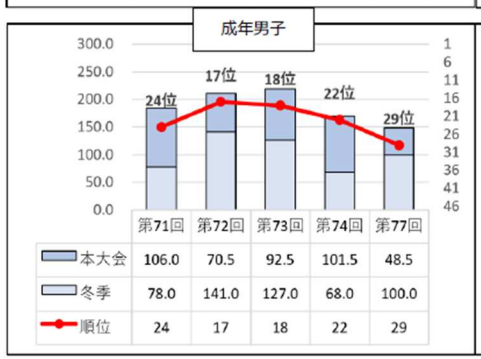


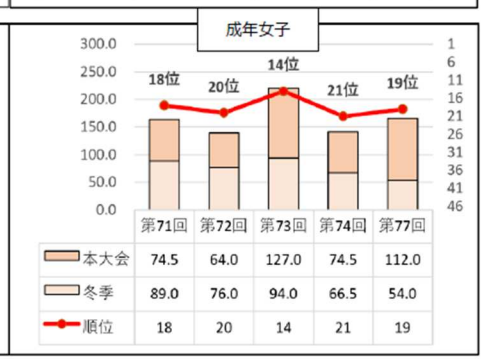


▼種別得点推移



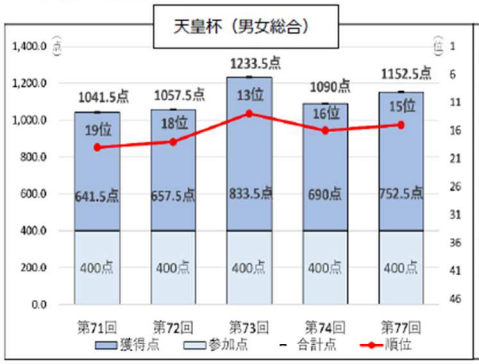


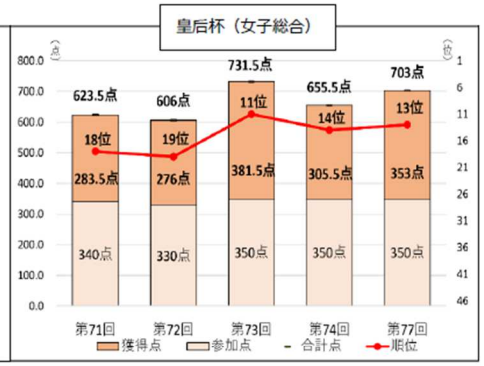




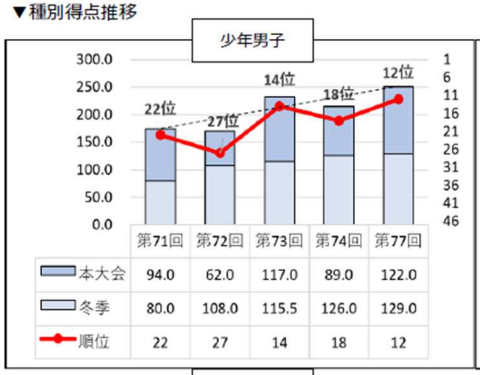
○ 指導者・審判員の養成

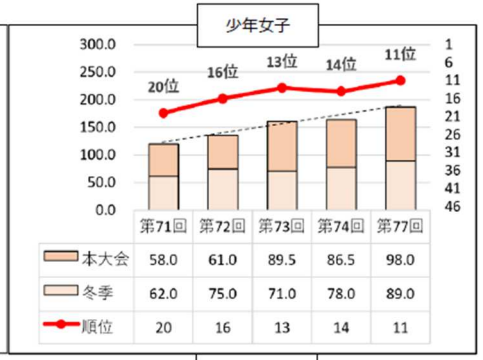
▼天皇杯・皇后杯比較

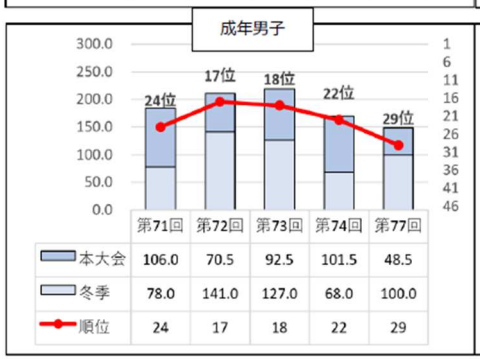


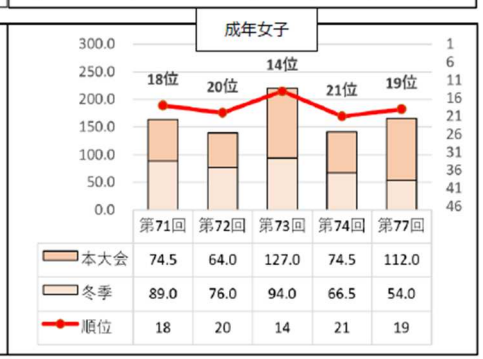


▼種別得点推移









○ 指導者・審判員の養成

改　正　案	現　　行
熟練した指導者の高齢化や、女性指導者の不足などが課題となっています。 また、2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポを控え、審判員や競技運営員の不足も課題となっています。 **○ 先端技術を活用した競技力向上対策** 競技力向上のための動作解析の必要性は多くの競技において認知されているものの、専門機器を活用したトップアスリートとの動作の比較等による技術指導はまだ普及していない状況です。トレーニングの効率を高め、より一層の競技力向上を図るため、先端技術を活用した競技力向上対策に取り組む必要があると考えられます。 **○ 誰もが専門的な医科学的なサポートを受けられる環境の整備** スポーツ障害の予防やトレーニング効果の向上のため、スポーツ医科学の面から支援が求められています。 他県の多くでは、スポーツ医科学拠点となる施設を設置していますが、県土が広い本県では、県内全域で活動するすべてのアスリートの支援を目指した独自の支援体制の構築が必要であると考えます。 また、女性アスリートに対して、女性特有の健康上の課題について指摘されており、理解の促進が必要であると考えます。 **○ アスリートの経験・技術の活用** アスリートが参加した県民向けのスポーツイベントやスポーツ教室等を充実させ、アスリートの経験や技術が、スポーツの魅力発信や県内スポーツの競技力向上等に活用されることが求められています。 **○ アスリートの県内定着** アスリートが県内に拠点を持ち、全国や世界で活躍できるための環境を整備するため、アスリートの県内就職について、企業へ「長野県アスリート就職支援事業」の周知や働きかけを促進する必要があります。	熟練した指導者の高齢化や、女性指導者の不足などが課題となっています。 また、2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポを控え、審判員や競技運営員の不足も課題となっています。 **○ 先端技術を活用した競技力向上対策** 競技力向上のための動作解析の必要性は多くの競技において認知されているものの、専門機器を活用したトップアスリートとの動作の比較等による技術指導はまだ普及していない状況です。トレーニングの効率を高め、より一層の競技力向上を図るため、先端技術を活用した競技力向上対策に取り組む必要があると考えられます。 **○ 誰もが専門的な医科学サポートを受けられる環境の整備** スポーツ障害の予防やトレーニング効果の向上のため、スポーツ医科学の面から支援が求められています。 他県の多くでは、スポーツ医科学拠点となる施設を設置していますが、県土が広い本県では、県内全域で活動するすべてのアスリートの支援を目指した独自の支援体制の構築が必要であると考えます。 **○ アスリートの経験・技術の活用** アスリートが参加した県民向けのスポーツイベントやスポーツ教室等を充実させ、アスリートの経験や技術が、スポーツの魅力発信や県内スポーツの競技力向上等に活用されることが求められています。 **○ アスリートの県内定着** アスリートが県内に拠点を持ち、全国や世界で活躍できるための環境を整備するため、アスリートの県内就職について、企業へ「長野県アスリート就職支援事業」の周知や働きかけを促進する必要があります。
P 13	P 13

改　正　案	現　　行
１．４　「スポーツの持つ力の多面的活用」の現状と課題 【１．４．１　これまでの取組状況】 【第２次計画での主な取組】 ・　長野県スポーツコミッション*による大会やスポーツ合宿の誘致促進を通じた地域活性化 ・　山岳スポーツやウィンタースポーツなど、本県ならではのスポーツの魅力発信による誘客促進 ・　県内のプロスポーツチームと連携した青少年の健全育成や観光振興 【１．４．２　主な課題】 ○　スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致等を通じた地域活性化 　ラグビーワールドカップ2019™ではイタリア代表が上田市菅平高原にて事前合宿を実施し、東京2020 オリンピック・パラリンピックでは、新型コロナウイルス感染症対策を図りつつ、4 市２町にて７カ国の事前合宿が行われました。これらの経験を活かし、引き続き、スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致等を通じた地域活性化が求められています。 ○　オリンピック・パラリンピックや国スポ・全障スポ等の大規模大会のレガシーの継承 　1998 年の長野冬季オリンピック・パラリンピック及び東京2020 オリンピック・パラリンピックよって培われたスポーツへの参加意識や多様性理解の精神を、2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポに向けて継承することが求められます。 　また、信州やまなみ国スポ・全障スポ開催を契機として、スポーツへの関心の高まり、大会運営のノウハウ、競技力の向上などをレガシーとして継承することが求められます。 ○　スポーツを通じた人々の交流促進 　スポーツには、子どもから大人まで、障がいのある人もない人も、スポーツを中心に様々な主体をつなぎ合わせる力があり、2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運等を活用しながら、人々の交流促進を図ることが求められます。	１．４　「スポーツの持つ力の多面的活用」の現状と課題 【１．４．１　これまでの取組状況】 【第２次計画での主な取組】 ・　長野県スポーツコミッション*による大会やスポーツ合宿の誘致促進を通じた地域活性化 ・　山岳スポーツやウィンタースポーツなど、本県ならではのスポーツの魅力発信による誘客促進 ・　県内のプロスポーツチームと連携した青少年の健全育成や観光振興 【１．４．２　主な課題】 ○　スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致等を通じた地域活性化 　ラグビーワールドカップ2019™ではイタリア代表が上田市菅平高原にて事前合宿を実施し、東京2020 オリンピック・パラリンピックでは、新型コロナウイルス感染症対策を図りつつ、4 市２町にて７カ国の事前合宿が行われました。これらの経験を活かし、引き続き、スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致等を通じた地域活性化が求められています。 ○　オリンピック・パラリンピックや国スポ・全障スポ等の大規模大会のレガシーの継承 　1998 年の長野冬季オリンピック・パラリンピック及び東京2020 オリンピック・パラリンピックよって培われたスポーツへの参加意識や多様性理解の精神を、2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポに向けて継承することが求められます。 　また、信州やまなみ国スポ・全障スポ開催を契機として、スポーツへの関心の高まり、大会運営のノウハウ、競技力の向上などをレガシーとして継承することが求められます。 ○　スポーツを通じた人々の交流促進 　スポーツには、子どもから大人まで、障がいのある人もない人も、スポーツを中心に様々な主体をつなぎ合わせる力があり、2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運等を活用しながら、人々の交流促進を図ることが求められます。

改　正　案	現　　行
○ プロスポーツとの連携 　県内には地域密着型のプロスポーツチームが多く存在するため、これらのチームとの連携をさらに深め、スポーツ振興や地域の活性化等に取り組んでいく必要があります。 **○ 健康長寿社会に向けた運動・スポーツによる健康づくり** 　体を動かす楽しみや、生活習慣病予防、医療費の抑制、フレイル*・介護予防等の観点から、運動・スポーツを通じた健康づくりへの期待が高まっています。 　また、新型コロナウイルス感染症の影響で様々なスポーツ活動が制限を受けたことにより、体力の低下やストレスの増加といった心身の健康保持への悪影響が生じた一方で、その反射的な効果として、運動やスポーツを通じた健康づくりの重要性が再認識されています。 **○ スポーツを通じた共生社会づくりの推進** 　障がい者スポーツなどには、年齢、性別、体力、環境等に応じて、ルールや用具を工夫するなど参加者にあわせた種目も多く、ユニバーサルスポーツとして、障害のある人に限らず、子供から高齢者、あるいは運動が得意でない人まで、誰もが楽しむことができ、スポーツを通じて障害のある人や体力がない人への理解を深める効果が期待されます。	**○ プロスポーツとの連携** 　県内には地域密着型のプロスポーツチームが多く存在するため、これらのチームとの連携をさらに深め、スポーツ振興や地域の活性化等に取り組んでいく必要があります。 **○ 健康長寿社会に向けた運動・スポーツによる健康づくり** 　体を動かす楽しみや、生活習慣病予防、医療費の抑制、フレイル*・介護予防等の観点から、運動・スポーツを通じた健康づくりへの期待が高まっています。 　また、新型コロナウイルス感染症の影響で様々なスポーツ活動が制限を受けたことにより、体力の低下やストレスの増加といった心身の健康保持への悪影響が生じた一方で、その反射的な効果として、運動やスポーツを通じた健康づくりの重要性が再認識されています。 **（新規）**
P 14	P 14
第2章 計画の基本的な考え方 **【２．１ 基本理念】** **スポーツの力で切り拓く長野県の未来** 　県民一人ひとりがその自発性のもとに、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、各々の適性や関心に応じて、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な形で参画できる環境を整えることで、スポーツの持つ力や価値をより多くの県民が実感し、県民一人ひとりの生活や心を、スポーツを	**第2章 計画の基本的な考え方** **【２．１ 基本理念】** **スポーツの力で切り拓く長野県の未来** 　県民一人ひとりがその自発性のもとに、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、各々の適性や関心に応じて、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な形で参画できる環境を整えることで、スポーツの持つ力や価値をより多くの県民が実感し、県民一人ひとりの生活や心を、スポーツを

改　正　案

通じてより豊かにするといったウェルビーイングの実現を目指し、「スポーツの力で切り拓く長野県の未来」を基本理念とします。

【２．２　スポーツの力・価値】

スポーツには様々な力や価値が潜在しています。

例えば、スポーツを「する」ことで、体力の向上や健康増進へ寄与することはもとより、多様なスポーツを気軽に楽しめる機会と場を通じて、自分もできるという経験から自己肯定感が生まれたり、人と人との触れ合いからコミュニケーションが活性化したりするなど、人々の生活や心を豊かにする力や価値があると考えられます。

また、スポーツを「みる」という観点からは、選手が試合や競技に挑戦する姿を「観る」ことから得られる感動に加え、更に「応援」することを通じて、選手と観客が一つとなれる一体感を得ることができると考えられ、「ささえる」という観点では、時には支える側に、また時には支えられる側になることで、他者を尊重し協働する精神を育むことができると考えられます。

このように、スポーツに親しむことで得られる「スポーツそのものが有する力・価値」を基本としつつ、スポーツを通じて地域の活性化や経済発展など、様々な社会課題の解決に寄与することから、「スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値」という観点もあると考えられます。

以上から、本計画では、「スポーツの力・価値」を「①スポーツそのものが有する力・価値」と「②スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値」の2 つに大別した上で、下図のとおり、それらをさらに細分化し、これらの「力・価値」を活用し更に高めていくような「施策の展開」に取り組むことで、基本理念の実現を目指します。

第３次長野県スポーツ推進計画で捉える「スポーツの力・価値」					
①スポーツそのものが有する力・価値			②スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値		
体力向上	心身の健全な発達	他者を尊重し協働する精神	地域活性化	地域社会のつながり	共生社会
楽しさ・喜び・自発性	生きる力（人間力）の向上	自己肯定感・達成感	健康長寿社会	経済発展	交流促進
コミュニケーション	生きがい	健康増進	魅力発信	好循環	レガシー
感動・一体感	夢・憧れ		異分野との連携		

現　　行

通じてより豊かにするといったウェルビーイングの実現を目指し、「スポーツの力で切り拓く長野県の未来」を基本理念とします。

【２．２　スポーツの力・価値】

スポーツには様々な力や価値が潜在しています。

例えば、スポーツを「する」ことで、体力の向上や健康増進へ寄与することはもとより、多様なスポーツを気軽に楽しめる機会と場を通じて、自分もできるという経験から自己肯定感が生まれたり、人と人との触れ合いからコミュニケーションが活性化したりするなど、人々の生活や心を豊かにする力や価値があると考えられます。

また、スポーツを「みる」という観点からは、選手が試合や競技に挑戦する姿を「観る」ことから得られる感動に加え、更に「応援」することを通じて、選手と観客が一つとなれる一体感を得ることができると考えられ、「ささえる」という観点では、時には支える側に、また時には支えられる側になることで、他者を尊重し協働する精神を育むことができると考えられます。

このように、スポーツに親しむことで得られる「スポーツそのものが有する力・価値」を基本としつつ、スポーツを通じて地域の活性化や経済発展など、様々な社会課題の解決に寄与することから、「スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値」という観点もあると考えられます。

以上から、本計画では、「スポーツの力・価値」を「①スポーツそのものが有する力・価値」と「②スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値」の2 つに大別した上で、下図のとおり、それらをさらに細分化し、これらの「力・価値」を活用し更に高めていくような「施策の展開」に取り組むことで、基本理念の実現を目指します。

第３次長野県スポーツ推進計画で捉える「スポーツの力・価値」					
①スポーツそのものが有する力・価値			②スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値		
体力向上	心身の健全な発達	他者を尊重し協働する精神	地域活性化	地域社会のつながり	共生社会
楽しさ・喜び・自発性	生きる力（人間力）の向上	自己肯定感・達成感	健康長寿社会	経済発展	交流促進
コミュニケーション	生きがい	健康増進	魅力発信	好循環	レガシー
感動・一体感	夢・憧れ		異分野との連携		

改　正　案

P 15

第3章 施策の展開

【３．１ 施策の展開】

基本理念である「スポーツの力で切り拓く長野県の未来」の実現に向けて、次の４つの基本目標を設定しました。

それぞれの基本目標に「５年後の目指す姿」を掲げ、その実現に向けた具体的な取組を「施策の展開」で示すとともに、その基本目標の達成状況を測るための「目標・指標」を設定しました。

基本目標1 子どもの運動･スポーツ機会の充実
1 幼児期からの運動の習慣化
2 学校体育･スポーツ活動の充実
3 子どもを取り巻くスポーツ環境の整備

基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実
1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
2 地域のスポーツ環境の整備

基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成
1 選手の育成強化･指導者養成による競技力向上
2 スポーツ界の好循環の創出

基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用
1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化
2 スポーツを通じた人々の交流促進･地域づくり
3 プロスポーツとの連携･協働の推進
4 運動･スポーツを通じた健康長寿社会の実現
5 スポーツを通じた共生社会づくりの実現

【目標・指標の考え方】

◆達成目標

基本目標の達成度を評価する指標を記述しています。

客観性確保のために、数値による指標を設定しています。

◆目標達成に向けた分析の参考とする指標

目標の達成に向けて、客観的な根拠として分析し、有効に施策を実施する

現　　行

P 15

第3章 施策の展開

【３．１ 施策の展開】

基本理念である「スポーツの力で切り拓く長野県の未来」の実現に向けて、次の４つの基本目標を設定しました。

それぞれの基本目標に「５年後の目指す姿」を掲げ、その実現に向けた具体的な取組を「施策の展開」で示すとともに、その基本目標の達成状況を測るための「目標・指標」を設定しました。

基本目標1 子どもの運動･スポーツ機会の充実
1 幼児期からの運動の習慣化
2 学校体育･スポーツ活動の充実
3 子どもを取り巻くスポーツ環境の整備

基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実
1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
2 地域のスポーツ環境の整備

基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成
1 選手の育成強化･指導者養成による競技力向上
2 スポーツ界の好循環の創出

基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用
1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化
2 スポーツを通じた人々の交流促進
3 プロスポーツとの連携･協働の推進
4 運動･スポーツを通じた健康長寿社会の実現

（新規）

【目標・指標の考え方】

◆達成目標

基本目標の達成度を評価する指標を記述しています。

客観性確保のために、数値による指標を設定しています。

◆目標達成に向けた分析の参考とする指標

目標の達成に向けて、客観的な根拠として分析し、有効に施策を実施する

改　正　案	現　　行
ための指標です。 　今後の状況の変化等により、指標の数や内容を変更する場合があります。 （削除） **【３．２　施策の展開の体系表】**	ための指標です。 　今後の状況の変化等により、指標の数や内容を変更する場合があります。 ※ 基本目標４「スポーツの持つ力の多面的活用」については、目標の性質上、明確な数値による達成目標を設定することが馴染まないため、「目標達成に向けた分析の参考とする指標」のみ設定しています。 **【３．２　施策の展開の体系表】**

改　正　案

基本目標	項目		施策の展開	活用する主な「スポーツの力・価値」
スポーツ機会の充実 1 子どもの運動・	(1)	幼児期からの運動の習慣化	- 幼児期からの運動の習慣化 - 長野県版運動プログラムの普及 - 指導者研修の充実 - 先進事例・好事例の市町村への普及定着支援	心身の健全な発達 楽しさ・喜び・自発性 コミュニケーション 地域社会のつながり
	(2)	学校体育・スポーツ活動の充実	- 体育・保健体育授業の支援 - 学校における体力向上に向けた取組の促進 - 適正で効果的なスポーツ活動の推進 - 学校体育・スポーツ活動の安全性の確保 - 教員研修の充実 - 障がいのある児童生徒に対する支援	体力向上 楽しさ・喜び・自発性 生きる力 自己肯定感・達成感
	(3)	子どもを取り巻く地域スポーツ環境の整備	- 子どものスポーツ環境の充実 - 公立中学校等における学校部活動の地域クラブ活動への移行 - 全国中学校体育大会の廃止競技に係る県内大会の在り方について - 魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実 - 親子参加型スポーツ体験の充実 - 障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進 - スポーツを通じた共生社会づくり	楽しさ・喜び・自発性 地域社会のつながり 共生社会 交流促進
2 生涯を通じたスポーツ機会の充実	(1)	ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進	- ライフスタイルに応じた「するスポーツ」の普及 - 青壮年期のスポーツ活動の促進 - 高齢期のスポーツ活動の促進 - 「みるスポーツ」の普及 - 「ささえるスポーツ」の普及 - 長野県の特徴を活かしたスポーツの推進 - 障がい者のスポーツ参加機会の拡大と理解促進 - 女性のスポーツ参画機会の充実	楽しさ・喜び・自発性 他者を尊重し協働する精神 健康増進 感動・一体感
	(2)	地域のスポーツ環境の整備	- スポーツ推進委員の活動支援 - 総合型地域スポーツクラブ等の育成と安定運営に向けての支援 - 地域スポーツ拠点のマルチ化 - 地域スポーツ指導者の養成 - 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 - スポーツにおける安全の確保 - スポーツイベントの充実 - スポーツ施設の充実・維持管理 - 女性がスポーツを楽しむ環境の整備 - 県立武道館を核とした武道振興 - 地域における障がい者スポーツ環境の整備 - スポーツを通じた共生社会づくり	生きがい 地域社会のつながり 共生社会 交流促進
3 全国や世界で活躍する選手の育成	(1)	選手の育成強化・指導者養成による競技力向上	- 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポに向けた競技力向上対策 - 指導者の養成と確保 - ジュニア選手の発掘・育成の推進 - 女性アスリートの支援 - 一貫指導体制の充実 - マルチサポートの推進 - 冬季競技の強化 - トップアスリートとの交流による競技意欲の喚起 - 県立武道館を核とした武道強化 - 大学や企業との連携 - 先端技術を活用した競技力向上対策 - 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 - 障がい者アスリートの養成	体力向上 夢・憧れ 地域社会のつながり レガシー
	(2)	スポーツ界の好循環の創出	- 県内を拠点とした競技活動の支援 - アスリートとの交流による県民スポーツ参加意欲の高揚	夢・憧れ 魅力発信 好循環 レガシー

現　　行

基本目標	項目		施策の展開	活用する主な「スポーツの力・価値」
スポーツ機会の充実 1 子どもの運動・	(1)	幼児期からの運動の習慣化	- 幼児期からの運動の習慣化 - 長野県版運動プログラムの普及 - 指導者研修の充実 - 先進事例・好事例の市町村への普及定着支援	心身の健全な発達 楽しさ・喜び・自発性 コミュニケーション 地域社会のつながり
	(2)	学校体育・スポーツ活動の充実	- 体育・保健体育授業の支援 - 学校における体力向上に向けた取組の促進 - 適正で効果的なスポーツ活動の推進 - 学校体育・スポーツ活動の安全性の確保 - 教員研修の充実 - 障がいのある児童生徒に対する支援	体力向上 楽しさ・喜び・自発性 生きる力 自己肯定感・達成感
	(3)	子どもを取り巻く地域スポーツ環境の整備	- 子どものスポーツ環境の充実 - 公立中学校等における学校部活動の地域クラブ活動への移行 - 魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実 - 親子参加型スポーツ体験の充実 - 障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進 - スポーツを通じた共生社会づくり	楽しさ・喜び・自発性 地域社会のつながり 共生社会 交流促進
2 生涯を通じたスポーツ機会の充実	(1)	ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進	- ライフスタイルに応じた「するスポーツ」の普及 - 青壮年期のスポーツ活動の促進 - 高齢期のスポーツ活動の促進 - 「みるスポーツ」の普及 - 「ささえるスポーツ」の普及 - 長野県の特徴を活かしたスポーツの推進 - 障がい者のスポーツ参加機会の拡大と理解促進	楽しさ・喜び・自発性 他者を尊重し協働する精神 健康増進 感動・一体感
	(2)	地域のスポーツ環境の整備	- スポーツ推進委員の活動支援 - 総合型地域スポーツクラブ等の育成と安定運営に向けての支援 - 地域スポーツ拠点のマルチ化 - 地域スポーツ指導者の養成 - 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 - スポーツにおける安全の確保 - スポーツイベントの充実 - スポーツ施設の充実・維持管理 - 県立武道館を核とした武道振興 - 地域における障がい者スポーツ環境の整備 - スポーツを通じた共生社会づくり	生きがい 地域社会のつながり 共生社会 交流促進
3 全国や世界で活躍する選手の育成	(1)	選手の育成強化・指導者養成による競技力向上	- 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポに向けた競技力向上対策 - 指導者の養成と確保 - ジュニア選手の発掘・育成の推進 - 女性アスリートの支援 - 一貫指導体制の充実 - マルチサポートの推進 - 冬季競技の強化 - トップアスリートとの交流による競技意欲の喚起 - 県立武道館を核とした武道強化 - 大学や企業との連携 - 先端技術を活用した競技力向上対策 - 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 - 障がい者アスリートの養成	体力向上 夢・憧れ 地域社会のつながり レガシー
	(2)	スポーツ界の好循環の創出	- 県内を拠点とした競技活動の支援 - アスリートとの交流による県民スポーツ参加意欲の高揚	夢・憧れ 魅力発信 好循環 レガシー

改　正　案

4 スポーツの持つ力の多面的活用	(1)	スポーツ~~ツーリズム~~の推進による地域経済の活性化	- スポーツ大会・合宿等の誘致を通じた地域経済の活性化 - スポーツツーリズムの振興 - セカンドキャリア等による雇用の創出	地域活性化 地域社会のつながり 経済発展 交流促進
	(2)	スポーツを通じた人々の交流促進・地域づくり	- 国際大会等の開催を通じた人々の交流 - オリンピック・パラリンピック開催を契機とした韓国・中国との交流の継続 - 信州ならではのスポーツの魅力発信 - 信州やまなみ国スポ・全障スポを通じた地域の活性化 - 総合型地域スポーツクラブによるコミュニティ創出 - プロスポーツ観戦を通じた交流人口・関係人口の拡大 - 女性・若者から選ばれるスポーツで元気な地域づくり	交流促進 魅力発信 レガシー 異分野との連携
	(3)	プロスポーツとの連携・協働の推進	- プロスポーツとの連携事業の推進 - トップアスリートとの連携による発信力強化 - プロスポーツを通じた県民のスポーツ参画率向上 - プロスポーツ観戦を通じた交流人口・関係人口の拡大(再掲)	感動・一体感 他者を尊重し協働する精神 地域活性化 魅力発信
	(4)	運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現	- 運動・スポーツを通じた健康づくりの推進 - スポーツプログラムを活用した健康経営企業プラグラムの促進	生きがい 健康増進 健康長寿社会 魅力発信
	(5)	スポーツを通じた共生社会づくり	- 障がい者スポーツに対する理解促進と運動機会の充実 - パラウェーブＮＡＧＡＮＯプロジェクトによる推進 - 信州やまなみ国スポ・全障スポを契機とした推進 - ユニバーサルツーリズムの推進	共生社会 地域社会のつながり 他者を尊重し協働する精神 交流促進

現　　行

4 スポーツの持つ力の多面的活用	(1)	スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化	- 国際大会の事前合宿誘致を通じた地域経済の活性化	地域活性化 地域社会のつながり 経済発展 交流促進
	(2)	スポーツを通じた人々の交流促進	- 国際大会等の開催を通じた人々の交流 - オリンピック・パラリンピック開催を契機とした韓国・中国との交流の継続 - 信州ならではのスポーツの魅力発信 - 信州やまなみ国スポ・全障スポを通じた地域の活性化	交流促進 魅力発信 レガシー 異分野との連携
	(3)	プロスポーツとの連携・協働の推進	- プロスポーツとの連携事業の推進	感動・一体感 他者を尊重し協働する精神 地域活性化 魅力発信
	(4)	運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現	- 運動・スポーツを通じた健康づくりの推進	生きがい 健康増進 健康長寿社会 魅力発信

P 17

【３．３　具体的な施策の展開】

基本目標１　子どもの運動・スポーツ機会の充実

【１　幼児期からの運動の習慣化】

【５年後の目指す姿】

□　長野県版運動プログラム*が普及し、体を使った遊びが好きな子どもが増え、屋内外で運動をする元気な子どもたちが増加している。

□　幼児期からの運動遊びに関する理解が広がり、県内各地で活発な取組が行われている。

【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】

心身の健全な発達　楽しさ・喜び・自発性　コミュニケーション　地域社会のつながり

【施策の展開】

○　幼児期からの運動の習慣化

・　いろいろな遊びの中で、体を動かすことの楽しさを感じることができるよ

P 17

【３．３　具体的な施策の展開】

基本目標１　子どもの運動・スポーツ機会の充実

【１　幼児期からの運動の習慣化】

【５年後の目指す姿】

□　長野県版運動プログラム*が普及し、体を使った遊びが好きな子どもが増え、屋内外で運動をする元気な子どもたちが増加している。

□　幼児期からの運動遊びに関する理解が広がり、県内各地で活発な取組が行われている。

【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】

心身の健全な発達　楽しさ・喜び・自発性　コミュニケーション　地域社会のつながり

【施策の展開】

○　幼児期からの運動の習慣化

・　いろいろな遊びの中で、体を動かすことの楽しさを感じることができるよ

改　正　案	現　　行
うに、親子運動遊びの普及と、地域での運動環境づくりの支援体制の強化を支援します。 ・ 発達段階に応じた運動習慣の定着の必要性について、休日の親子運動教室等を活用して、保護者等へ周知していきます。 ・ 市町村が実施する乳幼児健診等の母子保健事業を通じて、乳幼児の心身の発達を促し親子のコミュニケーションを図る遊びの一環として、月齢に応じた身体活動について周知していきます。 **○ 長野県版運動プログラムの普及** ・ 長野県版運動プログラムが、幼稚園・保育所・認定こども園、学校、家庭や地域のクラブ等でより一層活用されるよう、研修講座や講師派遣等を充実させます。 ・ 幼稚園・保育所・認定こども園、小学校に配布した長野県版運動プログラムDVD の活用を促進するとともに、家庭や地域のクラブに対しては、ホームページ上の動画の活用を呼びかけます。 ・ 長野県版運動プログラムの趣旨や運動内容、発達段階に応じた指導法が、市町村や地域のスポーツクラブ等で行われる運動教室にも生かされるなど、運動好きの子どもが育つ運動プログラムの普及を進めます。 **○ 指導者研修の充実** ・ 子どもが楽しく運動に取り組み、体力やコミュニケーション能力等を高められるよう、総合教育センター等において指導者研修を実施します。 **○ 先進事例・好事例の市町村への普及定着支援** ・ 幼児期からの一貫した体力向上策に取り組む市町村の先進事例・好事例を、他の市町村に発信し、その普及を図ります。	うに、親子運動遊びの普及と、地域での運動環境づくりの支援体制の強化を支援します。 ・ 発達段階に応じた運動習慣の定着の必要性について、休日の親子運動教室等を活用して、保護者等へ周知していきます。 ・ 市町村が実施する乳幼児健診等の母子保健事業を通じて、乳幼児の心身の発達を促し親子のコミュニケーションを図る遊びの一環として、月齢に応じた身体活動について周知していきます。 **○ 長野県版運動プログラムの普及** ・ 長野県版運動プログラムが、幼稚園・保育所・認定こども園、学校、家庭や地域のクラブ等でより一層活用されるよう、研修講座や講師派遣等を充実させます。 ・ 幼稚園・保育所・認定こども園、小学校に配布した長野県版運動プログラムDVD の活用を促進するとともに、家庭や地域のクラブに対しては、ホームページ上の動画の活用を呼びかけます。 ・ 長野県版運動プログラムの趣旨や運動内容、発達段階に応じた指導法が、市町村や地域のスポーツクラブ等で行われる運動教室にも生かされるなど、運動好きの子どもが育つ運動プログラムの普及を進めます。 **○ 指導者研修の充実** ・ 子どもが楽しく運動に取り組み、体力やコミュニケーション能力等を高められるよう、体育センター等において指導者研修を実施します。 **○ 先進事例・好事例の市町村への普及定着支援** ・ 幼児期からの一貫した体力向上策に取り組む市町村の先進事例・好事例を、他の市町村に発信し、その普及を図ります。
P 18	P 18
【２ 学校体育・スポーツ活動の充実】 **【５年後の目指す姿】** □ 運動が好きな子どもたちが増え、休み時間や放課後に体育館や校庭などで遊ぶ子どもたちが増えている。	**【２ 学校体育・スポーツ活動の充実】** **【５年後の目指す姿】** □ 運動が好きな子どもたちが増え、休み時間や放課後に体育館や校庭などで遊ぶ子どもたちが増えている。

改　正　案	現　　行
□ 効果的なICT 活用により、ニーズに応じて、データベース上の資料や動画をいつでも確認できる等、運動の技能差にかかわらない個別最適な体育授業が充実している。 □ 少子化の進行に伴い、学校単位での運動部活動の成立が困難な学校においても、学校間や市町村間、または地域のスポーツクラブ等との連携により、スポーツ活動機会が確保され、その団体での各種大会への参加も可能となっている。 □ 国際大会や全国大会を目指す子どもたちの練習環境が整い、それぞれの目標に向けてひたむきに取り組む子どもが増えている。 □ 障がいのある子どもたちが、個々の障がいに応じた適切な運動指導を受けられ、障がいの有無にかかわらず一緒に運動遊びを楽しんでいる。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 体力向上　楽しさ・喜び・自発性　生きる力（人間力）の向上 自己肯定感・達成感 **【施策の展開】** **○ 体育・保健体育授業の支援** ・ 生活における運動の大切さが実感できる健康教育との連携を図りながら、個々の特性に応じた運動の楽しさを感じる授業づくりを推進します。 ・ 効果的なICT の活用が広がり、様々な違いに関わらず運動の楽しさを追究できる学習の個性化や、次時の課題を自ら見出していく振り返り等の充実を通じて、子どもが主体的に学ぶ授業を推進します。 ・ 各校のカリキュラムマネジメントを工夫し、運動好きの割合が低くなる傾向にある中高生の女子のニーズに応じた運動種目の教材化を進めるとともに、運動の大切さを感じられる取組の継続を推進していきます。 ・ 信州型コミュニティスクール*等を活用し、地域住民等による体育授業のサポートを促進します。 ・ 県内で開催されるアスリート、パラアスリートの競技会観戦を授業の一環として実施することを推進します。 ・ 小学校における専科教員について、その効果を検証しながら、今後の配置について検討していきます。	□ 効果的なICT 活用により、ニーズに応じて、データベース上の資料や動画をいつでも確認できる等、運動の技能差にかかわらない個別最適な体育授業が充実している。 □ 少子化の進行に伴い、学校単位での運動部活動の成立が困難な学校においても、学校間や市町村間、または地域のスポーツクラブ等との連携により、スポーツ活動機会が確保され、その団体での各種大会への参加も可能となっている。 □ 国際大会や全国大会を目指す子どもたちの練習環境が整い、それぞれの目標に向けてひたむきに取り組む子どもが増えている。 □ 障がいのある子どもたちが、個々の障がいに応じた適切な運動指導を受けられ、障がいの有無にかかわらず一緒に運動遊びを楽しんでいる。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 体力向上　楽しさ・喜び・自発性　生きる力（人間力）の向上 自己肯定感・達成感 **【施策の展開】** **○ 体育・保健体育授業の支援** ・ 生活における運動の大切さが実感できる健康教育との連携を図りながら、個々の特性に応じた運動の楽しさを感じる授業づくりを推進します。 ・ 効果的なICT の活用が広がり、様々な違いに関わらず運動の楽しさを追究できる学習の個性化や、次時の課題を自ら見出していく振り返り等の充実を通じて、子どもが主体的に学ぶ授業を推進します。 ・ 各校のカリキュラムマネジメントを工夫し、運動好きの割合が低くなる傾向にある中高生の女子のニーズに応じた運動種目の教材化を進めるとともに、運動の大切さを感じられる取組の継続を推進していきます。 ・ 信州型コミュニティスクール*等を活用し、地域住民等による体育授業のサポートを促進します。 ・ 県内で開催されるアスリート、パラアスリートの競技会観戦を授業の一環として実施することを推進します。 ・ 小学校における専科教員について、その効果を検証しながら、今後の配置について検討していきます。

改　正　案	現　　行
○ 学校における体力向上に向けた取組の促進 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用し、運動好きな子どもを増やすとともに体力向上を目指します。 ・ 体力テスト*の結果から、成果と課題を反映した「体力向上プラン*」を各校で作成し、児童生徒の体力向上と併せ、運動好きの子どもが育つ取組にも役立てます。 ・ 全ての児童生徒の生活の中に運動が存在するよう、日常的に運動が少ない児童生徒でも参加しやすくなるような工夫をした「ながのスポーツスタジアム*」や「一校一運動*」を推進します。 ・ 小中学生の体力テストの結果を各市町村やスポーツ推進委員と共有することにより、各市町村での体力向上施策の修正、改善につなげるとともに、運動教室の実施等、子どもの運動環境の構築を支援します。	**○ 学校における体力向上に向けた取組の促進** ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用し、運動好きな子どもを増やすとともに体力向上を目指します。 ・ 体力テスト*の結果から、成果と課題を反映した「体力向上プラン*」を各校で作成し、児童生徒の体力向上と併せ、運動好きの子どもが育つ取組にも役立てます。 ・ 全ての児童生徒の生活の中に運動が存在するよう、日常的に運動が少ない児童生徒でも参加しやすくなるような工夫をした「ながのスポーツスタジアム*」や「一校一運動*」を推進します。 ・ 小中学生の体力テストの結果を各市町村やスポーツ推進委員と共有することにより、各市町村での体力向上施策の修正、改善につなげるとともに、運動教室の実施等、子どもの運動環境の構築を支援します。
○ 適正で効果的なスポーツ活動の推進 ・ 「長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針*」及び「長野県高等学校の運動部活動方針*」に基づく発達段階に応じた適正で効果的な活動を通して、運動好きで生涯にわたり運動に親しむことができる子どもの育成を目指します。 ・ 生徒の多様なニーズや運動の機会の少ない中学生や高校生等に対応するため、楽しくスポーツができ、複数種目を経験できるようなスポーツ環境づくりを支援します。 ・ 総合教育センターでの研修講座等により、発達段階に応じた適切な指導ができるよう指導力の向上を図ります。 ・成長期にある、女子児童・生徒や保護者、指導者に対して女性特有の健康問題に関する正しい知識の普及や理解促進を支援します。	**○ 適正で効果的なスポーツ活動の推進** ・ 「長野県中学生期のスポーツ活動指針*」及び「長野県高等学校の運動部活動方針*」に基づく発達段階に応じた適正で効果的な活動を通して、運動好きで生涯にわたり運動に親しむことができる子どもの育成を目指します。 ・ 生徒の多様なニーズや運動の機会の少ない中学生や高校生等に対応するため、楽しくスポーツができ、複数種目を経験できるようなスポーツ環境づくりを支援します。 ・ 体育センターでの研修講座等により、発達段階に応じた適切な指導ができるよう指導力の向上を図ります。 **（新規）**
○ 学校体育・スポーツ活動の安全性の確保 ・ 熱中症予防や感染症対策等の周知を徹底し、スポーツや運動に取り組む子どもたちの安全確保に努めます。 ・ 武道、水泳をはじめとする学校体育・スポーツ活動に対する指導者の安全意識を高めるため、総合教育センターや研究協議会等での研修を充実させ、安全で効果的な活動を推進します。 ・ 「頭頚(けい)部外傷事故発生時の対応フローチャート*」をすべての関係	**○ 学校体育・スポーツ活動の安全性の確保** ・ 熱中症予防や感染症対策等の周知を徹底し、スポーツや運動に取り組む子どもたちの安全確保に努めます。 ・ 武道、水泳をはじめとする学校体育・スポーツ活動に対する指導者の安全意識を高めるため、体育センターや研究協議会等での研修を充実させ、安全で効果的な活動を推進します。 ・ 「頭頚(けい)部外傷事故発生時の対応フローチャート*」をすべての関係

改　正　案	現　　行
者が共有し、事故が発生した際には、同フローチャートに基づいた適切な対応により、重篤事故の防止に努めます。 ・ 高校生の冬山・春山での登山活動を安全に行うため、「登山部顧問等安全登山講習会」等において、「長野県高校生の冬山・春山登山における安全確保指針*」の遵守・徹底を図ります。 ・ 児童生徒の体育・スポーツ活動が安全に実施できるように、体育施設や用具の整備、メンテナンスを適切に行うよう支援します。 **○ 教員研修の充実** ・ 総合教育センター等における教員の研修機会を充実し、教員の指導力向上を図ります。 **○ 障がいのある児童生徒に対する支援** ・ 特別支援学校などにおいて、児童生徒の「個別の指導計画」に基づき一人ひとりのニーズや適性に応じた体育やスポーツ活動に係る支援の充実を図ります。 ・ 障がいのある児童生徒とない児童生徒の「交流及び共同学習」において、ともに体育やスポーツ活動を行うことにより交流を深める取組を推進します。 ・ 卒業後も地域社会において、生涯を通じてスポーツ等に親しめるよう、特別支援学校間のスポーツ交流や、地域と連携した卒業後の豊かな生活につながる学習活動の充実を図ります。 ・ トップアスリートとの交流等を通じ、スポーツを志向できる環境づくりを推進します。	者が共有し、事故が発生した際には、同フローチャートに基づいた適切な対応により、重篤事故の防止に努めます。 ・ 高校生の冬山・春山での登山活動を安全に行うため、「登山部顧問等安全登山講習会」等において、「長野県高校生の冬山・春山登山における安全確保指針*」の遵守・徹底を図ります。 ・ 児童生徒の体育・スポーツ活動が安全に実施できるように、体育施設や用具の整備、メンテナンスを適切に行うよう支援します。 **○ 教員研修の充実** ・ 体育センター等における教員の研修機会を充実し、教員の指導力向上を図ります。 **○ 障がいのある児童生徒に対する支援** ・ 特別支援学校などにおいて、児童生徒の「個別の指導計画」に基づき一人ひとりのニーズや適性に応じた体育やスポーツ活動に係る支援の充実を図ります。 ・ 障がいのある児童生徒とない児童生徒の「交流及び共同学習」において、ともに体育やスポーツ活動を行うことにより交流を深める取組を推進します。 ・ 卒業後も地域社会において、生涯を通じてスポーツ等に親しめるよう、特別支援学校間のスポーツ交流や、地域と連携した卒業後の豊かな生活につながる学習活動の充実を図ります。 ・ トップアスリートとの交流等を通じ、スポーツを志向できる環境づくりを推進します。
P21	P21
【３ 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実】 **【５年後の目指す姿】** □ 地域の持続可能で多様なスポーツ環境が整備され、子どもたちの多様な体験機会が確保されている。 □ 子どもたちが仲間同士で、安全に自然体験活動ができる場所やスポーツ施設が身近にあり、屋内外で体を動かして楽しく遊ぶことができる環境が整	**【３ 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実】** **【５年後の目指す姿】** □ 地域の持続可能で多様なスポーツ環境が整備され、子どもたちの多様な体験機会が確保されている。 □ 子どもたちが仲間同士で、安全に自然体験活動ができる場所やスポーツ施設が身近にあり、屋内外で体を動かして楽しく遊ぶことができる環境が整

改　正　案	現　　行
っている。 □ 親子で参加できるスポーツイベントなど、親子で楽しめる運動遊びの機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆(きずな)が深まっている。 □ プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、応援や試合観戦など、スポーツを見て楽しんでいる子どもが増えている。 □ 障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会などが盛んに開催されている。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 楽しさ・喜び・自発性　地域社会のつながり　共生社会　交流促進 **【施策の展開】** **○ 子どものスポーツ環境の充実** ・ 学校体育以外でも運動をしたい子どもや、運動習慣が身についていない子どもなど、多様なニーズのある子どもの受け皿となるスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツクラブの充実を図り、全ての子どもに運動機会を提供できる環境を整えます。 ・ 2028 年に開催する信州やまなみ国スポ・全障スポへの関心を高め、生涯を通して「する・みる・ささえる」スポーツの参加機会を増やし、運動の楽しさが得られるように努めます。 ・ 総合教育センター、教育事務所等の実技指導、研修を充実し、子どものスポーツ活動を支える指導者を支援します。 ・ 県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、子どもたちが武道を見たり、体験する機会を提供します。 **○ 公立中学校等における学校部活動の地域クラブ活動への移行** ・ 学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、まずは休日の活動から着手し、学校、市町村、地域のスポーツクラブ等との連携・協働による地域を拠点としたスポーツ環境づくりを支援します。 ・原則として、休日・平日ともに、全ての学校部活動を地域クラブ活動に移行します。国が示す令和７年度までの改革推進期間中に新たな地域クラブ活動の環境整備を鋭意進め、可能な限り早期の実現を目指しつつ、地域の	っている。 □ 親子で参加できるスポーツイベントなど、親子で楽しめる運動遊びの機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆(きずな)が深まっている。 □ プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、応援や試合観戦など、スポーツを見て楽しんでいる子どもが増えている。 □ 障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会などが盛んに開催されている。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 楽しさ・喜び・自発性　地域社会のつながり　共生社会　交流促進 **【施策の展開】** **○ 子どものスポーツ環境の充実** ・ 学校体育以外でも運動をしたい子どもや、運動習慣が身についていない子どもなど、多様なニーズのある子どもの受け皿となるスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツクラブの充実を図り、全ての子どもに運動機会を提供できる環境を整えます。 ・ 2028 年に開催する信州やまなみ国スポ・全障スポへの関心を高め、生涯を通して「する・みる・ささえる」スポーツの参加機会を増やし、運動の楽しさが得られるように努めます。 ・ 体育センター、教育事務所等の実技指導、研修を充実し、子どものスポーツ活動を支える指導者を支援します。 ・ 県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、子どもたちが武道を見たり、体験する機会を提供します。 **○ 公立中学校等における学校部活動の地域クラブ活動への移行** ・ 学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、まずは休日の活動から着手し、学校、市町村、地域のスポーツクラブ等との連携・協働による地域を拠点としたスポーツ環境づくりを支援します。 **（新規）**

改　正　案	現　　行
実情に応じ、令和８年度末を目途に休日の学校部活動の地域クラブ活動への移行完了を目指します。 ・令和７年度までの移行状況を調査・検証し、改めて平日の移行について方針を示します。	（新規）
・　学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、総合型地域スポーツクラブや地域における競技団体等の指導者の確保や質の向上を図るための取組を支援します。	・　学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、総合型地域スポーツクラブや地域における競技団体等の指導者の確保や質の向上を図るための取組を支援します。
○　全国中学校体育大会の廃止競技に係る県内大会の在り方について ・日本中学校体育連盟及び中央競技団体の動向を注視し、今後の在り方について、県教育委員会や長野県中学校体育連盟、県内競技団体等が参画するプロジェクト委員会において検討していきます。	（新規］）
○　魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実 ・　山岳総合センター等での研修講座等を通して、子どもが安全で楽しく野外活動ができるように指導者の研修を推進します。	**○　魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実** ・　山岳総合センター等での研修講座等を通して、子どもが安全で楽しく野外活動ができるように指導者の研修を推進します。
○　親子参加型スポーツ体験の充実 ・　休日などに親子で参加できるスポーツ機会を増やし、親子で楽しみながら運動するきっかけづくりと、子育て世代の生涯スポーツにつながる運動機会の提供を図ります。 ・　県内で開催されるプロスポーツやパラスポーツ等の競技を親子で観戦し、スポーツについて親子で語り合うことによりスポーツ関心度を高めます。	**○　親子参加型スポーツ体験の充実** ・　休日などに親子で参加できるスポーツ機会を増やし、親子で楽しみながら運動するきっかけづくりと、子育て世代の生涯スポーツにつながる運動機会の提供を図ります。 ・　県内で開催されるプロスポーツやパラスポーツ等の競技を親子で観戦し、スポーツについて親子で語り合うことによりスポーツ関心度を高めます。
○　障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進 ・　2028 年の信州やまなみ全障スポに向け、開催気運の醸成に努め、本県選手が活躍できるよう選手の発掘・育成を行います。 ・　様々なスポーツに親しむ機会を提供するため、障がいのある子どもを対象とした、スポーツ体験会を充実します。 ・　障がいのある子どもの保護者を対象にスポーツを行う意義の啓発を行い、保護者のスポーツに対する意識改革を図ります。 ・　障がいのある子どもがスポーツをする際に、障がいの程度や種類に応じて	**○　障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進** ・　2028 年の信州やまなみ全障スポに向け、開催気運の醸成に努め、本県選手が活躍できるよう選手の発掘・育成を行います。 ・　様々なスポーツに親しむ機会を提供するため、障がいのある子どもを対象とした、スポーツ体験会を充実します。 ・　障がいのある子どもの保護者を対象にスポーツを行う意義の啓発を行い、保護者のスポーツに対する意識改革を図ります。 ・　障がいのある子どもがスポーツをする際に、障がいの程度や種類に応じて

改　正　案

必要な配慮がなされるよう、関係者や保護者の障がいに対する理解を促進します。

・ 障がいのある子どもとない子どもが一緒にスポーツできる環境づくりを推進し、共生社会の実現を加速させます。

・ 小中学生・保護者を対象に、障がい者スポーツの体験会を開催し、障がい者スポーツや障がい者の社会参加に関する理解促進を図ります。

○ スポーツを通じた共生社会づくり

・ 「パラウェーブＮＡＧＡＮＯ*」プロジェクトとして、県内の学校に対し、パラ学（県独自のコンテンツであるパラスポーツ体験型授業）を提供し、共生社会づくりを推進します。

Ｐ23

【目標・指標】　＜基本目標１＞子どもの運動・スポーツ機会の充実

◆達成目標

指標名		現状	目標(令和9年度)	備考
体力合計点 (小･中学生男女合計平均)		49.0 点 (令和4年度)	52 点	･本県の過去最高点(51 点)の更新を目指す ･52点は R3 全国1位の水準 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合 (中学生女子)		77.2% (令和4年度)	80%	･本県の過去最高割合(79.8%)の更新を目指す ･80%は R3 全国1位の水準 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
体育授業以外の1週間の運動実施時間が60 分未満の子どもの割合	小学生男子	8.9% (令和4年度)	6%以下	･過去5年の全国平均(7.7%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
	小学生女子	16.7% (令和4年度)	10%以下	･過去5年の全国平均(12.7%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
	中学生男子	8.1% (令和4年度)	6%以下	･過去5年の全国平均(7.1%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
	中学生女子	18.2% (令和4年度)	17%以下	･過去5年の全国平均(18.8%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】

現　　行

必要な配慮がなされるよう、関係者や保護者の障がいに対する理解を促進します。

・ 障がいのある子どもとない子どもが一緒にスポーツできる環境づくりを推進し、共生社会の実現を加速させます。

・ 小中学生・保護者を対象に、障がい者スポーツの体験会を開催し、障がい者スポーツや障がい者の社会参加に関する理解促進を図ります。

○ スポーツを通じた共生社会づくり

・ 「パラウェーブＮＡＧＡＮＯ*」プロジェクトとして、県内の学校に対し、パラ学（県独自のコンテンツであるパラスポーツ体験型授業）を提供し、共生社会づくりを推進します。

Ｐ23

【目標・指標】　＜基本目標１＞子どもの運動・スポーツ機会の充実

◆達成目標

指標名		現状	目標(令和9年度)	備考
体力合計点 (小･中学生男女合計平均)		49.0 点 (令和4年度)	52 点	･本県の過去最高点(51 点)の更新を目指す ･52点は R3 全国1位の水準 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合 (中学生女子)		77.2% (令和4年度)	80%	･本県の過去最高割合(79.8%)の更新を目指す ･80%は R3 全国1位の水準 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
体育授業以外の1週間の運動実施時間が60 分未満の子どもの割合	小学生男子	8.9% (令和4年度)	6%以下	･過去5年の全国平均(7.7%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
	小学生女子	16.7% (令和4年度)	10%以下	･過去5年の全国平均(12.7%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
	中学生男子	8.1% (令和4年度)	6%以下	･過去5年の全国平均(7.1%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
	中学生女子	18.2% (令和4年度)	17%以下	･過去5年の全国平均(18.8%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力･運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】

改　正　案	現　　行
◆目標達成に向けた分析の参考とする指標 ・長野県版運動プログラム実施市町村数 ・総合型地域スポーツクラブによる長野県版運動プログラム実施数 ・長野県版運動プログラム普及講座受講者数 ・一校一運動実施率 ・ながのスポーツスタジアム参加数 ・学校体育指導者研修受講者数 ・学校体育実技（武道）講習会受講者数 ・運動部活動及び地域のスポーツクラブ加入率 ・地域のスポーツ活動指導者向け研修の受講者数 ・休日部活動の移行部活動率 ・総合型地域スポーツクラブによる「ゆるスポ活動*」実施数 （削除　⇒　基本目標４の達成指標　に変更） ・障がい者スポーツ指導員の数 ・障がい者スポーツの体験会や交流会等を実施する市町村の数	◆目標達成に向けた分析の参考とする指標 ・長野県版運動プログラム実施市町村数 ・総合型地域スポーツクラブによる長野県版運動プログラム実施数 ・長野県版運動プログラム普及講座受講者数 ・一校一運動実施率 ・ながのスポーツスタジアム参加数 ・学校体育指導者研修受講者数 ・学校体育実技（武道）講習会受講者数 ・運動部活動及び地域のスポーツクラブ加入率 ・地域のスポーツ活動指導者向け研修の受講者数 ・学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて受け皿となる運営団体の設置率 ・総合型地域スポーツクラブによる「ゆるスポ活動*」実施数 ~~・パラ学（県独自の体験型授業）の実施クラス累計数~~ ・障がい者スポーツ指導員の数 ・障がい者スポーツの体験会や交流会等を実施する市町村の数
P 24	P 24
基本目標２　生涯を通じたスポーツ機会の充実	基本目標２　生涯を通じたスポーツ機会の充実
【１　ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進】 【５年後の目指す姿】 ◆達成目標 □　デジタル技術を活用したスポーツの場の提供により、時間・場所を気にすることなく、日々の生活の中にスポーツが取り入れられている。 □　プロスポーツチームの試合や各種スポーツ大会の観戦・応援などスポーツをみて楽しむ人が増加している。 □　スポーツボランティアとして地域のスポーツ活動を盛り上げるなど、スポーツを「ささえる」人が増加している。 □　社会の障がいに対する理解が促進され、障がいの有無にかかわらず、スポーツを通じた交流が拡大されている。	【１　ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進】 【５年後の目指す姿】 ◆達成目標 □　デジタル技術を活用したスポーツの場の提供により、時間・場所を気にすることなく、日々の生活の中にスポーツが取り入れられている。 □　プロスポーツチームの試合や各種スポーツ大会の観戦・応援などスポーツをみて楽しむ人が増加している。 □　スポーツボランティアとして地域のスポーツ活動を盛り上げるなど、スポーツを「ささえる」人が増加している。 □　社会の障がいに対する理解が促進され、障がいの有無にかかわらず、スポーツを通じた交流が拡大されている。

改　正　案	現　　行
□　女性・若者がスポーツに親しみ、明るく元気な地域が形成されている。	（新規）
【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】 楽しさ・喜び・自発性　他者を尊重し協働する精神　健康増進 感動・一体感	【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】 楽しさ・喜び・自発性　他者を尊重し協働する精神　健康増進 感動・一体感
【施策の展開】 ○ ライフスタイルに応じた「するスポーツ」の普及 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツに親しむ人口の拡大を図り、県民の健康づくりを推進します。 ・ 県レクリエーション協会等と連携し、軽運動やニュースポーツ*など、高齢者を含む多くの世代や障がい者が気軽にできる運動・スポーツを普及し、余暇時間におけるスポーツの習慣化を促進します。 ・ スポーツに関わる余暇時間が少ない県民にも、できるだけスポーツに興味や関心を持てるような働きかけを行います。 ・ 働く世代の健康増進のため、企業等と連携し、スポーツ機会の拡充を図ります。 ・ 運動時間が不足しがちな子育て世代が心身の健康を保つための運動など、ニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。 ・ 時間や場所に関わらず、日々の生活の中にスポーツが取り入れられるよう、デジタル技術（リモート等）を活用したスポーツの場の提供を進めます。	【施策の展開】 ○ ライフスタイルに応じた「するスポーツ」の普及 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツに親しむ人口の拡大を図り、県民の健康づくりを推進します。 ・ 県レクリエーション協会等と連携し、軽運動やニュースポーツ*など、高齢者を含む多くの世代や障がい者が気軽にできる運動・スポーツを普及し、余暇時間におけるスポーツの習慣化を促進します。 ・ スポーツに関わる余暇時間が少ない県民にも、できるだけスポーツに興味や関心を持てるような働きかけを行います。 ・ 働く世代の健康増進のため、企業等と連携し、スポーツ機会の拡充を図ります。 ・ 運動時間が不足しがちな子育て世代が心身の健康を保つための運動など、ニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。 ・ 時間や場所に関わらず、日々の生活の中にスポーツが取り入れられるよう、デジタル技術（リモート等）を活用したスポーツの場の提供を進めます。
○ 青壮年期のスポーツ活動の促進 ・ 運動不足になりがちな働く世代が、生活習慣病予防のため、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診・保健指導の際の意識啓発を推進します。	○ 青壮年期のスポーツ活動の促進 ・ 運動不足になりがちな働く世代が、生活習慣病予防のため、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診・保健指導の際の意識啓発を推進します。
○ 高齢期のスポーツ活動の促進 ・ 体を動かす楽しみやフレイル*・介護予防の観点から、高齢者がスポーツ活動に積極的に取り組めるよう支援します。また、高齢者の身近な場所での運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。 ・ 体力的な理由等により運動・スポーツをすることが困難な高齢者に対し、	○ 高齢期のスポーツ活動の促進 ・ 体を動かす楽しみやフレイル*・介護予防の観点から、高齢者がスポーツ活動に積極的に取り組めるよう支援します。また、高齢者の身近な場所での運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。 ・ 体力的な理由等により運動・スポーツをすることが困難な高齢者に対し、

改　正　案	現　　行
スポーツ観戦やスポーツボランティアへの参加等のスポーツとの関わり方を普及し、スポーツが生活に潤いを与える社会の実現を目指します。	スポーツ観戦やスポーツボランティアへの参加等のスポーツとの関わり方を普及し、スポーツが生活に潤いを与える社会の実現を目指します。
○ 「みるスポーツ」の普及 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツを「みる」習慣化を促進します。 ・ 県内で開催される世界大会や全国大会の情報を収集し、トップレベルの競技を身近で観戦できる機会の発信に努めます。 ・ 県内に本拠地を置くプロスポーツチームのファン・サポーターを増やし、県内で開催される試合の観戦者の増加を目指します。 ・ 本県出身のプロスポーツ選手やトップアスリートの活躍を広く県民に広報し、県民のスポーツへの関心度を高めます。	**○ 「みるスポーツ」の普及** ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツを「みる」習慣化を促進します。 ・ 県内で開催される世界大会や全国大会の情報を収集し、トップレベルの競技を身近で観戦できる機会の発信に努めます。 ・ 県内に本拠地を置くプロスポーツチームのファン・サポーターを増やし、県内で開催される試合の観戦者の増加を目指します。 ・ 本県出身のプロスポーツ選手やトップアスリートの活躍を広く県民に広報し、県民のスポーツへの関心度を高めます。
○ 「ささえるスポーツ」の普及 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツを「ささえる」人口の拡大を図ります。 ・ 地域におけるスポーツイベントへのスポーツボランティアの参加を促進し、スポーツイベントを実施する地域のスポーツクラブ等の活動の充実を図ります。 ・ スポーツボランティアの実施希望率が高い若者世代が、ボランティア活動に参加しやすい環境の整備を進めます。 ・ 障がい者スポーツの支援にスポーツボランティアとして参画する者が増加するよう、関係機関と連携して取り組みます。	**○ 「ささえるスポーツ」の普及** ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツを「ささえる」人口の拡大を図ります。 ・ 地域におけるスポーツイベントへのスポーツボランティアの参加を促進し、スポーツイベントを実施する地域のスポーツクラブ等の活動の充実を図ります。 ・ スポーツボランティアの実施希望率が高い若者世代が、ボランティア活動に参加しやすい環境の整備を進めます。 ・ 障がい者スポーツの支援にスポーツボランティアとして参画する者が増加するよう、関係機関と連携して取り組みます。
○ 長野県の特徴を活かしたスポーツの推進 ・ 県民が親しみをもって取り組んでいるスポーツを推進し、多くの県民が生涯を通じてスポーツを身近に感じることができる環境づくりを推進します。	**○ 長野県の特徴を活かしたスポーツの推進** ・ 県民が親しみをもって取り組んでいるスポーツを推進し、多くの県民が生涯を通じてスポーツを身近に感じることができる環境づくりを推進します。
○ 障がい者のスポーツ参加機会の拡大と理解促進 ・ 障がい者が、適性や目的に応じたスポーツ活動ができるよう、様々なスポーツの体験教室を開催します。 ・ 多くの障がい者が参加できるよう、障がい者スポーツ大会を充実します。	**○ 障がい者のスポーツ参加機会の拡大と理解促進** ・ 障がい者が、適性や目的に応じたスポーツ活動ができるよう、様々なスポーツの体験教室を開催します。 ・ 多くの障がい者が参加できるよう、障がい者スポーツ大会を充実します。

改　正　案	現　　行
・ スポーツに親しみ、楽しむ障がい者を増やすため、スポーツ体験会やセミナーの開催を通じて、障がい者及び介助者等に対しスポーツの意義を啓発します。 ・ ホームページ、県・市町村広報紙などを通じ、障がい者スポーツに関する情報の発信を行い、障がい者スポーツに対する理解を促進します。 ・ 特別支援学校の生徒が、卒業後に継続してスポーツを行うことができるよう、特別支援学校、総合型地域スポーツクラブ等の関係機関が連携し、生涯にわたりスポーツに親しめるよう取り組みます。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機として、障がい者の社会参加の促進と社会の障がい理解を促進するとともに、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じた交流を拡大するなど、誰にでも「居場所」と「出番」があり、多様性を尊重する共生社会づくりを力強く後押しします。 **○ 女性のスポーツ参画機会の充実** ・女性が身近な地域で、年齢、興味・関心に応じて、日常的にスポーツに取り組める機会の充実に向け、市町村や総合型クラブ等と連携し、働く女性や子育て世代に対応した週休日・夜間のスポーツ教室の設定、子どもと一緒に参加できるプログラム、女性のニーズに即した健康・体力増進等の運動プログラムの多様化を促進します。	・ スポーツに親しみ、楽しむ障がい者を増やすため、スポーツ体験会やセミナーの開催を通じて、障がい者及び介助者等に対しスポーツの意義を啓発します。 ・ ホームページ、県・市町村広報紙などを通じ、障がい者スポーツに関する情報の発信を行い、障がい者スポーツに対する理解を促進します。 ・ 特別支援学校の生徒が、卒業後に継続してスポーツを行うことができるよう、特別支援学校、総合型地域スポーツクラブ等の関係機関が連携し、生涯にわたりスポーツに親しめるよう取り組みます。 （新規） **（新規）**
P 26	P 26
【２ 地域のスポーツ環境の整備】 **【５年後の目指す姿】** □ スポーツ推進委員がコーディネーター役となり、それぞれの地域で、個々の目的や適性等に応じたスポーツ活動が活発に行われている。 □ 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、社会体育団体やその他のスポーツクラブ等が、それぞれの地域で充実した活動を展開している。 □ 「長野県スポーツ医科学ネットワーク*」を活用し、アスリートだけでなく、地域住民も健康状態に応じて安全かつ効果的な運動・スポーツプログラムが日常生活に取り入れられている。 □ 大規模改修時期を迎えた県有スポーツ施設が適切に改修され、誰もが利用	**【２ 地域のスポーツ環境の整備】** **【５年後の目指す姿】** □ スポーツ推進委員がコーディネーター役となり、それぞれの地域で、個々の目的や適性等に応じたスポーツ活動が活発に行われている。 □ 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、社会体育団体やその他のスポーツクラブ等が、それぞれの地域で充実した活動を展開している。 □ 「長野県スポーツ医科学ネットワーク*」を活用し、アスリートだけでなく、地域住民も健康状態に応じて安全かつ効果的な運動・スポーツプログラムが日常生活に取り入れられている。 □ 大規模改修時期を迎えた県有スポーツ施設が適切に改修され、誰もが利用

改　正　案	現　　行
しやすいスポーツ施設として整備されている。 □　障がいの種類、程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 生きがい　地域社会のつながり　共生社会　交流促進 **【施策の展開】** **○ スポーツ推進委員の活動支援** ・ スポーツ推進委員が、学校、地域、スポーツ団体及び民間スポーツクラブ等の橋渡し役となり、地域スポーツのコーディネーターとして活動できるよう、市町村と連携して活動を支援します。 **○ 総合型地域スポーツクラブ等の育成と安定運営に向けての支援** ・ 地域のスポーツ活動を支える中核組織である総合型地域スポーツクラブの自立的な運営や質的充実を推進するため、関係団体と連携し中間支援組織*を支援します。 ・ 中間支援組織が実施するアシスタントマネージャー*養成講習会等、総合型地域スポーツクラブの運営に関わる中心的人材の育成を支援します。 ・ 地域のスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団等）の安定的な運営に向けて継続的に活動を支援し、市町村、長野県スポーツ協会、長野県スポーツ推進委員協議会等、各関係団体が連携した体制づくりを推進します。 **○ 地域スポーツ拠点のマルチ化** ・ 公民館、文化施設等において、従来から行っている生涯学習・文化・地域活動に加えて、スポーツ活動を行う取組を支援することにより、スポーツに関心のない県民でも気軽に参加できる環境整備を促進します。 **○ 地域スポーツ指導者の養成** ・ 総合教育センター等の研修により、地域のスポーツ活動を支える指導者の育成を図ります。 ・ スポーツで活躍した選手やスポーツ指導法を学んだ大学卒業生が、総合型	しやすいスポーツ施設として整備されている。 □　障がいの種類、程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 生きがい　地域社会のつながり　共生社会　交流促進 **【施策の展開】** **○ スポーツ推進委員の活動支援** ・ スポーツ推進委員が、学校、地域、スポーツ団体及び民間スポーツクラブ等の橋渡し役となり、地域スポーツのコーディネーターとして活動できるよう、市町村と連携して活動を支援します。 **○ 総合型地域スポーツクラブ等の育成と安定運営に向けての支援** ・ 地域のスポーツ活動を支える中核組織である総合型地域スポーツクラブの自立的な運営や質的充実を推進するため、関係団体と連携し中間支援組織*を支援します。 ・ 中間支援組織が実施するアシスタントマネージャー*養成講習会等、総合型地域スポーツクラブの運営に関わる中心的人材の育成を支援します。 ・ 地域のスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団等）の安定的な運営に向けて継続的に活動を支援し、市町村、長野県スポーツ協会、長野県スポーツ推進委員協議会等、各関係団体が連携した体制づくりを推進します。 **○ 地域スポーツ拠点のマルチ化** ・ 公民館、文化施設等において、従来から行っている生涯学習・文化・地域活動に加えて、スポーツ活動を行う取組を支援することにより、スポーツに関心のない県民でも気軽に参加できる環境整備を促進します。 **○ 地域スポーツ指導者の養成** ・ 体育センター等の研修により、地域のスポーツ活動を支える指導者の育成を図ります。 ・ スポーツで活躍した選手やスポーツ指導法を学んだ大学卒業生が、総合型

改　正　案	現　　行
地域スポーツクラブ等においてスポーツ指導に従事できるような環境づくりを研究していきます。 ・ 地域のスポーツ指導者相互の連携を図ります。 ・ 各地域で障がい者スポーツを指導する人材を養成するため、障がい者スポーツ指導員の養成講習会を開催します。	地域スポーツクラブ等においてスポーツ指導に従事できるような環境づくりを研究していきます。 ・ 地域のスポーツ指導者相互の連携を図ります。 ・ 各地域で障がい者スポーツを指導する人材を養成するため、障がい者スポーツ指導員の養成講習会を開催します。
○ 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 ・ 各地域の医療関係者等の協力を得て、医科学サポートの提供が可能な施設・人材を発掘し、アスリートのみならず県民誰もが県内各地で医科学的なサポートを受けられるネットワーク体制の構築を目指します。	**○ 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築** ・ 各地域の医療関係者等の協力を得て、医科学サポートの提供が可能な施設・人材を発掘し、アスリートのみならず県民誰もが県内各地で医科学的なサポートを受けられるネットワーク体制の構築を目指します。
○ スポーツにおける安全の確保 ・ 総合教育センター、長野県スポーツ協会、長野県障がい者スポーツ協会等が実施する各種研修の機会や「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の活用を通じて、最新のスポーツ医科学的知見に基づくスポーツ事故・外傷等に関する専門的知識の普及・啓発に努め、未然防止の取組を推進します。 ・ 市町村やスポーツ団体に対し、ＡＥＤの設置の確認や不測の事態が生じた際に速やかにＡＥＤを使用できる体制整備を図るよう啓発します。 ・ スポーツとしての登山を安全に楽しむために、登山者が安全登山の知識や技術を能動的に学べる機会の提供等により、安全に登山が楽しめる環境づくりを推進します。	**○ スポーツにおける安全の確保** ・ 体育センター、長野県スポーツ協会、長野県障がい者スポーツ協会等が実施する各種研修の機会や「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の活用を通じて、最新のスポーツ医科学的知見に基づくスポーツ事故・外傷等に関する専門的知識の普及・啓発に努め、未然防止の取組を推進します。 ・ 市町村やスポーツ団体に対し、ＡＥＤの設置の確認や不測の事態が生じた際に速やかにＡＥＤを使用できる体制整備を図るよう啓発します。 ・ スポーツとしての登山を安全に楽しむために、登山者が安全登山の知識や技術を能動的に学べる機会の提供等により、安全に登山が楽しめる環境づくりを推進します。
○ スポーツイベントの充実 ・ 「長野マラソン・長野車いすマラソン」、「長野県障がい者スポーツ大会」、「信州ねんりんピック*」等、広く県民が参加しスポーツに親しめるイベントの充実を図ります。 ・ 信州やまなみ国スポ・全障スポの競技開催地において、当該地域の地域資源と合わせたスポーツイベントの開催等、魅力発信による地域活性化を図る取組を支援します。	**○ スポーツイベントの充実** ・ 「長野マラソン」、「長野県障がい者スポーツ大会」、「信州ねんりんピック*」等、広く県民が参加しスポーツに親しめるイベントの充実を図ります。 ・ 信州やまなみ国スポ・全障スポの競技開催地において、当該地域の地域資源と合わせたスポーツイベントの開催等、魅力発信による地域活性化を図る取組を支援します。
○ スポーツ施設の充実・維持管理 ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの会場地市町村と連携しながら、大会後も地域スポーツ拠点となる施設の整備を計画的に進めます。	**○ スポーツ施設の充実・維持管理** ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの会場地市町村と連携しながら、大会後も地域スポーツ拠点となる施設の整備を計画的に進めます。

改　正　案	現　　行
・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機として、開催地となった市町村を中心に、将来にわたり安全で、適正なスポーツ施設環境を提供するとともに、レガシーを継承し、誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しめる環境づくりを推進します。	（新規）
・ 県営スポーツ施設が、ニーズの変化に対応し、誰もが身近で安全に利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインの導入を積極的に検討するなど、利用者の意見に十分配慮しながら施設の充実と適切な維持管理に努めます。	・ 県営スポーツ施設が、ニーズの変化に対応し、誰もが身近で安全に利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインの導入を積極的に検討するなど、利用者の意見に十分配慮しながら施設の充実と適切な維持管理に努めます。
・ 体操等が気軽にできる場として都市公園等オープンスペースの有効活用を推進し、施設以外にもスポーツができる場を創出します。	・ 体操等が気軽にできる場として都市公園等オープンスペースの有効活用を推進し、施設以外にもスポーツができる場を創出します。
・ 誰もが気軽にサイクリングを楽しめるよう、諏訪湖周にサイクリングロードを整備します。	・ 誰もが気軽にサイクリングを楽しめるよう、諏訪湖周にサイクリングロードを整備します。
・働く子育て世代に対応した利用時間の設定や、子育て世代に配慮したキッズスペースの確保や託児室、授乳室の設置等の優良な取組事例について情報提供を行うなど、市町村や総合型クラブ等と連携し、子育て世代がスポーツ施設を利用しやすい環境づくりを促進します。	（新規）
○ 女性がスポーツを楽しむ環境の整備	**（新規）**
・成長期の女性アスリートはもちろんのこと、女性や保護者、指導者に対して女性の健康問題に関する正しい知識の普及や理解促進を行うための支援を実施します。（再掲）	
・ 市町村と連携し、地域における女性のスポーツに対するニーズ・意欲に即したスポーツ・レクリエーションプログラムを提供できる女性のスポーツ推進委員登用を促進します。	
○ 県立武道館を核とした武道振興	**○ 県立武道館を核とした武道振興**
・ 県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、武道の普及を図ります。	・ 県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、武道の普及を図ります。
・ 全国大会を継続的に誘致し、トップレベルの選手を間近で「みる」機会を増やします。	・ 全国大会を継続的に誘致し、トップレベルの選手を間近で「みる」機会を増やします。
○ 地域における障がい者スポーツ環境の整備	**○ 地域における障がい者スポーツ環境の整備**
・ スポーツ推進委員が、地域内で広く人々とスポーツを通して関わり、障が	・ スポーツ推進委員が、地域内で広く人々とスポーツを通して関わり、障が

改　正　案	現　　行
い者スポーツの普及や発展に努められるように支援します。 ・ 総合型地域スポーツクラブが地域の学校や施設等と連携して、障がい者が参加するプログラムを実施できるような環境づくりを推進します。 ・ 障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、県・市町村の運動施設での障がい者スポーツ用具の整備を促進します。 ・ 障がいがあることを理由に施設利用が制限されることがないよう、施設管理者や職員の障がい者スポーツに対する理解を促進します。 ・ 障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、特別支援学校などの体育施設や競技用具の地域への開放を促進します。 ・ 障がい者スポーツ地域コーディネーター*が、障がい者スポーツを支える行政・関係団体・指導者等の協力を得ながらネットワークを構築し、障がい者が身近な地域でスポーツを楽しめるよう支援します。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機に、多くの障がい者が障がい者スポーツを生涯スポーツとして取り組めるよう環境を整えます。 **○ スポーツを通じた共生社会づくり** ・ 「パラウェーブＮＡＧＡＮＯ」プロジェクトとして、障がいの有無にかかわらず参加できるスポーツ大会やイベント会場等でのパラスポーツ体験会等を開催し、共生社会づくりを推進します。	い者スポーツの普及や発展に努められるように支援します。 ・ 総合型地域スポーツクラブが地域の学校や施設等と連携して、障がい者が参加するプログラムを実施できるような環境づくりを推進します。 ・ 障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、県・市町村の運動施設での障がい者スポーツ用具の整備を促進します。 ・ 障がいがあることを理由に施設利用が制限されることがないよう、施設管理者や職員の障がい者スポーツに対する理解を促進します。 ・ 障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、特別支援学校などの体育施設や競技用具の地域への開放を促進します。 ・ 障がい者スポーツ地域コーディネーター*が、障がい者スポーツを支える行政・関係団体・指導者等の協力を得ながらネットワークを構築し、障がい者が身近な地域でスポーツを楽しめるよう支援します。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機に、多くの障がい者が障がい者スポーツを生涯スポーツとして取り組めるよう環境を整えます。 **○ スポーツを通じた共生社会づくり** ・ 「パラウェーブＮＡＧＡＮＯ」プロジェクトとして、障がいの有無にかかわらず参加できるスポーツ大会やイベント会場等でのパラスポーツ体験会等を開催し、共生社会づくりを推進します。
P 29	P 29
【目標・指標】　＜基本目標２＞生涯を通じたスポーツ機会の充実 **◆達成目標**	**【目標・指標】　＜基本目標２＞生涯を通じたスポーツ機会の充実** **◆達成目標**

改　正　案

指標名	現状	目標(令和9年度)	備考
成人の運動・スポーツ実施率(成人の週1日以上)	60.8%(令和3年度)	70%	・国の第3期スポーツ基本計画の目標値と同一【県政モニターアンケート調査】
直接スポーツ観戦率	8.0%(令和3年度)	20%	・本県の過去最高割合(13.5%)の更新を目指す【県政モニターアンケート調査】
スポーツボランティア参加率	4.2%(令和3年度)	15%	・本県の過去最高割合(10.7%)の更新を目指す【県政モニターアンケート調査】
地域のスポーツクラブへの加入率	8.7%(令和3年度)	20%	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の水準(約10%)からの倍増を目指す【(加入者数)スポーツ課調】【(県人口)毎月人口異動調査】
障がいのある人が参加するプログラムを行っている総合型地域スポーツクラブの割合	26.9%(令和3年度)	50%	・令和10年の本県での全障スポ開催を1年前に控え、全総合型地域スポーツクラブの半数を目指す【障がい者支援課調】
成人女性の運動スポーツ実施率(成人の週1日以上)	女性 42.8%(令和5年度)	XX%	・本県の過去最高割合(XX.X%)の更新を目指す【県政モニターアンケート調査】

◆目標達成に向けた分析の参考とする指標
・アシスタントマネージャー養成講習会受講者数
・生涯スポーツ研修講座受講者数
・スポーツ事故等に関する講習会受講者数
・総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度*の登録クラブ数
・総合型地域スポーツクラブと障がい福祉施設等が連携した障がい者スポーツの拠点数

現　　行

指標名	現状	目標(令和9年度)	備考
成人の運動・スポーツ実施率(成人の週1日以上)	60.8%(令和3年度)	70%	・国の第3期スポーツ基本計画の目標値と同一【県政モニターアンケート調査】
直接スポーツ観戦率	8.0%(令和3年度)	20%	・本県の過去最高割合(13.5%)の更新を目指す【県政モニターアンケート調査】
スポーツボランティア参加率	4.2%(令和3年度)	15%	・本県の過去最高割合(10.7%)の更新を目指す【県政モニターアンケート調査】
地域のスポーツクラブへの加入率	8.7%(令和3年度)	20%	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の水準(約10%)からの倍増を目指す【(加入者数)スポーツ課調】【(県人口)毎月人口異動調査】
障がいのある人が参加するプログラムを行っている総合型地域スポーツクラブの割合	26.9%(令和3年度)	50%	・令和10年の本県での全障スポ開催を1年前に控え、全総合型地域スポーツクラブの半数を目指す【障がい者支援課調】

(新規)

◆目標達成に向けた分析の参考とする指標
・アシスタントマネージャー養成講習会受講者数
・生涯スポーツ研修講座受講者数
・スポーツ事故等に関する講習会受講者数
・総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度*の登録クラブ数
・総合型地域スポーツクラブと障がい福祉施設等が連携した障がい者スポーツの拠点数

P30

基本目標３　全国や世界で活躍する選手の育成

【１　選手の育成強化、指導者養成による競技力向上】

【５年後の目指す姿】
□　オリンピックやパラリンピックなどの国際舞台や、全国大会で活躍する本

P30

基本目標３　全国や世界で活躍する選手の育成

【１　選手の育成強化、指導者養成による競技力向上】

【５年後の目指す姿】
□　オリンピックやパラリンピックなどの国際舞台や、全国大会で活躍する本

改　正　案	現　　行
県選手が増加している。 □ 2028 年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得を目指し、本県の競技力が向上している。 □ 優秀な多くの指導者が遺憾なく力を発揮できる強化指導体制・環境が構築されている。 □ ジュニア選手の発掘育成や異種競技へのトランスファー*など、選手の持つ可能性を最大限に引き出す環境が整備されている。 □ 拠点を中心とした発掘・育成体制が整備され、競技人口の安定確保とともに、ジュニアアスリートの全国大会出場数が増加している。 □ ＳＷＡＮプロジェクト修了生がオリンピックに出場し、メダルを獲得している。 □ 本県のトップアスリートが県内のどこでも医科学サポートを受けられ、最先端の科学的な強化指導が受けられる環境が整備されるとともに、スポーツに親しむ一般県民にも医科学サポートが浸透し始めている。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 体力向上　夢・憧れ　地域社会のつながり　レガシー **【施策の展開】** **○ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポに向けた競技力向上対策** ・ 2028 年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得を目指し、「長野県競技力向上基本計画」に基づき、関係団体とともに競技力向上対策を推進していきます。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポ開催後も競技力を維持できる選手の育成・強化体制の確立を目指し、競技団体との連携を一層推進します。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機に、審判員や競技運営員等のスポーツを支える人材を地域に輩出する取組を推進します。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポに向けた指導者養成特別対策として、各競技団体の中央研修会への参加や公認指導者資格取得を支援し、指導力のレベルアップとともに持続可能な指導体制の確立を目指します。 ・ 2028 年の信州やまなみ全障スポで、本県選手が活躍できるよう選手の育成を行います。	県選手が増加している。 □ 2028 年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得を目指し、本県の競技力が向上している。 □ 優秀な多くの指導者が遺憾なく力を発揮できる強化指導体制・環境が構築されている。 □ ジュニア選手の発掘育成や異種競技へのトランスファー*など、選手の持つ可能性を最大限に引き出す環境が整備されている。 □ 拠点を中心とした発掘・育成体制が整備され、競技人口の安定確保とともに、ジュニアアスリートの全国大会出場数が増加している。 □ ＳＷＡＮプロジェクト修了生がオリンピックに出場し、メダルを獲得している。 □ 本県のトップアスリートが県内のどこでも医科学サポートを受けられ、最先端の科学的な強化指導が受けられる環境が整備されるとともに、スポーツに親しむ一般県民にも医科学サポートが浸透し始めている。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 体力向上　夢・憧れ　地域社会のつながり　レガシー **【施策の展開】** **○ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポに向けた競技力向上対策** ・ 2028 年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得を目指し、「長野県競技力向上基本計画」に基づき、関係団体とともに競技力向上対策を推進していきます。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポ開催後も競技力を維持できる選手の育成・強化体制の確立を目指し、競技団体との連携を一層推進します。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機に、審判員や競技運営員等のスポーツを支える人材を地域に輩出する取組を推進します。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポに向けた指導者養成特別対策として、各競技団体の中央研修会への参加や公認指導者資格取得を支援し、指導力のレベルアップとともに持続可能な指導体制の確立を目指します。 ・ 2028 年の信州やまなみ全障スポで、本県選手が活躍できるよう選手の育成を行います。

改　正　案	現　　行
○ 指導者の養成と確保 ・ 総合教育センターの研修を充実し、指導者の資質向上を図ります。 ・ 長野県スポーツ協会と連携し、各競技団体が行う指導者育成を支援します。 ・ アドバイザリーコーチの配置や強化指定指導者制度の創設など指導体制の強化を図ります。 ・ 本県ゆかりのオリンピアン等の協力を得て、指導者が参加する講習会の開催などを通じて、指導技術の向上を図ります。 ・ 指導に係る情報交換や指導技術の共有化を図るため、各競技間における指導者の連携を深めます。 ・ 優秀な指導者が、県内に定着し、県内を拠点に活躍できる環境づくりを推進します。	**○ 指導者の養成と確保** ・ 体育センターの研修を充実し、指導者の資質向上を図ります。 ・ 長野県スポーツ協会と連携し、各競技団体が行う指導者育成を支援します。 ・ アドバイザリーコーチの配置や強化指定指導者制度の創設など指導体制の強化を図ります。 ・ 本県ゆかりのオリンピアン等の協力を得て、指導者が参加する講習会の開催などを通じて、指導技術の向上を図ります。 ・ 指導に係る情報交換や指導技術の共有化を図るため、各競技間における指導者の連携を深めます。 ・ 優秀な指導者が、県内に定着し、県内を拠点に活躍できる環境づくりを推進します。
○ ジュニア選手の発掘・育成の推進 ・ 地域のスポーツクラブや競技団体、小・中学校と連携し、長野県育ちのアスリートとなる子どもたちが発掘され、適正種目への転向（トランスファー）も可能となる体制を整備します。 ・ ＳＷＡＮプロジェクト事業を推進し、世界で競える高い資質を持った人材を発掘育成します。また、同プロジェクトの共通プログラム等を他種目競技選手の育成にも活用します。	**○ ジュニア選手の発掘・育成の推進** ・ 地域のスポーツクラブや競技団体、小・中学校と連携し、長野県育ちのアスリートとなる子どもたちが発掘され、適正種目への転向（トランスファー）も可能となる体制を整備します。 ・ ＳＷＡＮプロジェクト事業を推進し、世界で競える高い資質を持った人材を発掘育成します。また、同プロジェクトの共通プログラム等を他種目競技選手の育成にも活用します。
○ 女性アスリートへの支援 ・ 成長期の急激な心身面での変化や、妊娠、出産、育児などをはじめとする女性のライフステージにおいて、女性アスリートが競技を中断したり、コンディションを崩さずに競技パフォーマンスを発揮できるよう、アスリート及び指導者などの理解促進や相談体制の充実、出産・育児等へのサポートを含めた支援体制の整備などを通じて、それぞれの場面で必要な支援や配慮を行いながら、女性アスリートの活動を支援するとともに、女性指導者の育成に努めます。	**○ 女性アスリートへの支援** ・ 女性特有の課題に着目した医科学サポート等の支援方法の研究を進めます。また、女性指導者の育成に努めます。
○ 一貫指導体制の充実 ・ 各競技団体が主導する多世代による一貫指導体制の拠点化を支援するとと	**○ 一貫指導体制の充実** ・ 各競技団体が主導する多世代による一貫指導体制の拠点化を支援するとと

改　正　案	現　　行
もに、学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けた取組との連携を推進します。	もに、学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けた取組との連携を推進します。
○ マルチサポートの推進 ・ すべての競技団体が、日常の練習や強化合宿等において、スポーツドクターや理学療法士などの医科学関係者からのサポートを受けられる体制の構築を目指します。 ・ 体力や健康状態の正確な把握やドーピング防止研修等、医科学の面から競技者や指導者をサポートします。	**○ マルチサポートの推進** ・ すべての競技団体が、日常の練習や強化合宿等において、スポーツドクターや理学療法士などの医科学関係者からのサポートを受けられる体制の構築を目指します。 ・ 体力や健康状態の正確な把握やドーピング防止研修等、医科学の面から競技者や指導者をサポートします。
○ 冬季競技の強化 ・ オリンピック等の国際舞台で活躍できるよう、冬季競技の選手強化と競技人口の拡大を支援していきます。	**○ 冬季競技の強化** ・ オリンピック等の国際舞台で活躍できるよう、冬季競技の選手強化と競技人口の拡大を支援していきます。
○ トップアスリートとの交流による競技意欲の喚起 ・ トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室等を開催し、子どもたちがトップスポーツへ夢や憧れを抱き競技に挑む意欲を喚起します。	**○ トップアスリートとの交流による競技意欲の喚起** ・ トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室等を開催し、子どもたちがトップスポーツへ夢や憧れを抱き競技に挑む意欲を喚起します。
○ 県立武道館を核とした武道強化 ・ 県立武道館にトップレベルの選手が参加する大会を誘致して「みる」機会を充実させるとともに、指導力を高める講習会等の開催により、競技人口の増加及び競技力の向上を図ります。 ・ 体系的な指導者育成・研修プログラムによる指導者養成を行うとともに、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の地域スポーツ団体との連携を図り、適正で効果的な指導の普及を図ります。	**○ 県立武道館を核とした武道強化** ・ 県立武道館にトップレベルの選手が参加する大会を誘致して「みる」機会を充実させるとともに、指導力を高める講習会等の開催により、競技人口の増加及び競技力の向上を図ります。 ・ 体系的な指導者育成・研修プログラムによる指導者養成を行うとともに、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の地域スポーツ団体との連携を図り、適正で効果的な指導の普及を図ります。
○ 大学や企業との連携 ・ 県内の大学、企業等との連携により、ＩＣＴや先端技術の活用による競技力向上を目指すとともに、地域スポーツとの連携・協働による好循環の創出を図ります。 ・ 企業に対し、アスリートの雇用や障がい者スポーツ振興に対する支援の拡大を働きかけます。	**○ 大学や企業との連携** ・ 県内の大学、企業等との連携により、ＩＣＴや先端技術の活用による競技力向上を目指すとともに、地域スポーツとの連携・協働による好循環の創出を図ります。 ・ 企業に対し、アスリートの雇用や障がい者スポーツ振興に対する支援の拡大を働きかけます。

改　正　案	現　　行
○ 先端技術を活用した競技力向上対策 ・ 動作解析装置等を活用し、スポーツ医科学関係者と協力した競技力向上の研究を行い、科学的根拠に基づいた育成強化に取り組みます。 ○ 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 ・ 県内どこでも医科学的なサポートを受けられるよう、スポーツ医科学関係者をネットワークで繋ぎ、官民共同で県内全域のアスリートをサポートできる体制を構築します。 ○ 障がい者アスリートの養成 ・ 一般のスポーツ競技団体の指導者の障がい者スポーツに関する理解を深め、連携して競技力の向上ができる環境づくりを構築します。 ・ 障がい者スポーツ地域コーディネーターが、地域の障がい者スポーツの情報を集め、障がい者アスリートと指導者等とを結びつけ、アスリートの競技力向上を図ります。 ・ 障がい者スポーツの競技人口の拡大と障がい者スポーツに対する県民の理解や関心を高めるため、パラリンピック等での障がい者アスリートの活躍などを広く情報発信します。	○ 先端技術を活用した競技力向上対策 ・ 動作解析装置等を活用し、スポーツ医科学関係者と協力した競技力向上の研究を行い、科学的根拠に基づいた育成強化に取り組みます。 ○ 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 ・ 県内どこでも医科学的なサポートを受けられるよう、スポーツ医科学関係者をネットワークで繋ぎ、官民共同で県内全域のアスリートをサポートできる体制を構築します。 ○ 障がい者アスリートの養成 ・ 一般のスポーツ競技団体の指導者の障がい者スポーツに関する理解を深め、連携して競技力の向上ができる環境づくりを構築します。 ・ 障がい者スポーツ地域コーディネーターが、地域の障がい者スポーツの情報を集め、障がい者アスリートと指導者等とを結びつけ、アスリートの競技力向上を図ります。 ・ 障がい者スポーツの競技人口の拡大と障がい者スポーツに対する県民の理解や関心を高めるため、パラリンピック等での障がい者アスリートの活躍などを広く情報発信します。
P33	P33
【２ スポーツ界の好循環の創出】 【５年後の目指す姿】 □ 長野県で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、本県のスポーツ振興を支える好循環が形成されている。 □ 高校・大学卒業後も地域や企業に支えられながら、競技と仕事をバランスよく両立できる環境が整っている。 □ 本県を代表するアスリートが、交流イベントやスポーツ教室などで県民と交流し、スポーツの魅力を発信している。 【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】 夢・憧れ　魅力発信　好循環　レガシー	【２ スポーツ界の好循環の創出】 【５年後の目指す姿】 □ 長野県で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、本県のスポーツ振興を支える好循環が形成されている。 □ 高校・大学卒業後も地域や企業に支えられながら、競技と仕事をバランスよく両立できる環境が整っている。 □ 本県を代表するアスリートが、交流イベントやスポーツ教室などで県民と交流し、スポーツの魅力を発信している。 【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】 夢・憧れ　魅力発信　好循環　レガシー

改　正　案

【施策の展開】

○ 県内を拠点とした競技活動の支援

・ 県内を拠点として競技活動を続けるため、県内企業等に就職するアスリートを増やす「長野県アスリート就職支援事業」を更に充実強化します。

・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機として、長野県の地で育った選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、将来にわたり本県のスポーツ振興を支える好循環の形成に努めます。

○ アスリートとの交流による県民スポーツ参加意欲の高揚

・ 本県関係アスリートが参加して県民と交流するスポーツイベントやスポーツ教室などの機会を拡大する取組を支援します。

P 34

【目標・達成】　＜基本目標３＞　全国や世界で活躍する選手の育成

◆達成目標

指標名		現状	目標(令和9年度)	備考
国民スポーツ(体育)大会	天皇杯(男女総合)順位	15位(令和4年)	5位以上	・令和10年信州やまなみ国スポで1位を目指す ・「競技力向上基本計画」に掲げる目標順位
	冬季大会順位	2位(令和4年)	1位	・直近5大会の分析をもとに目標設定
	本大会順位	34位(令和4年)	10位以上	・直近5大会の分析をもとに目標設定
国民スポーツ(体育)大会(少年)・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の入賞数		254人・団体(令和4年度)	300人・団体以上	・令和10年信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて過去最多の入賞数を目指す
ミラノ・コルティナダンペッツォ冬季オリンピック(2026年)で SWAN からメダリスト輩出		0人(令和4年冬季北京五輪)	1人以上	・SWAN プロジェクト出身者からメダリスト輩出を目指す
ブロック予選を突破して全国障害者スポーツ大会に出場する団体競技数(障がい種別、男女別)		1競技(令和4年度)	6競技	・信州やまなみ全障スポ開催を1年後に控える中、全12競技の半数で予選突破を目指す

現　　行

【施策の展開】

○ 県内を拠点とした競技活動の支援

・ 県内を拠点として競技活動を続けるため、県内企業等に就職するアスリートを増やす「長野県アスリート就職支援事業」を更に充実強化します。

（新規）

○ アスリートとの交流による県民スポーツ参加意欲の高揚

・ 本県関係アスリートが参加して県民と交流するスポーツイベントやスポーツ教室などの機会を拡大する取組を支援します。

P 34

【目標・達成】　＜基本目標３＞　全国や世界で活躍する選手の育成

◆達成目標

指標名		現状	目標(令和9年度)	備考
国民スポーツ(体育)大会	天皇杯(男女総合)順位	15位(令和4年)	5位以上	・令和10年信州やまなみ国スポで1位を目指す ・「競技力向上基本計画」に掲げる目標順位
	冬季大会順位	2位(令和4年)	1位	・直近5大会の分析をもとに目標設定
	本大会順位	34位(令和4年)	10位以上	・直近5大会の分析をもとに目標設定
国民スポーツ(体育)大会(少年)・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の入賞数		254人・団体(令和4年度)	300人・団体以上	・令和10年信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて過去最多の入賞数を目指す
ミラノ・コルティナダンペッツォ冬季オリンピック(2026年)で SWAN からメダリスト輩出		0人(令和4年冬季北京五輪)	1人以上	・SWAN プロジェクト出身者からメダリスト輩出を目指す
ブロック予選を突破して全国障害者スポーツ大会に出場する団体競技数(障がい種別、男女別)		1競技(令和4年度)	6競技	・信州やまなみ全障スポ開催を1年後に控える中、全12競技の半数で予選突破を目指す

改　正　案	現　　行
◆目標達成に向けた分析の参考とする指標 ・北信越国体における本大会への出場権獲得数 ・SWAN プロジェクトメンバーの全国中学校体育大会入賞数 ・オリンピアン育成支援対象者の世界大会出場人数 ・長野県アスリート就職支援事業等による県内就職アスリート数 ・医科学サポートを選手強化の中に位置付けて選手を支援している競技団体数 ・先端技術を活用した競技力向上に対応できる競技（種目）数 ・全国障害者スポーツ大会ブロック予選に出場する団体競技数（障がい種別、男女別）	◆目標達成に向けた分析の参考とする指標 ・北信越国体における本大会への出場権獲得数 ・SWAN プロジェクトメンバーの全国中学校体育大会入賞数 ・オリンピアン育成支援対象者の世界大会出場人数 ・長野県アスリート就職支援事業による県内就職アスリート数 ・医科学サポートを選手強化の中に位置付けて選手を支援している競技団体数 ・先端技術を活用した競技力向上に対応できる競技（種目）数 ・全国障害者スポーツ大会ブロック予選に出場する団体競技数（障がい種別、男女別）
P35	P35
基本目標４　スポーツの持つ力の多面的活用	基本目標４　スポーツの持つ力の多面的活用
【１ スポーツ~~ツーリズム~~の推進による地域経済の活性化】 【５年後の目指す姿】 □ 長野県スポーツコミッションが核となり、全国大会・世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、スポーツを通じた誘客による地域経済の活性化が図られている。 □ 本県の特徴を活かしたスポーツ・アクティビティ振興を通じて、国内外からの誘客を進めることにより、地域経済の活性化が図られている。 【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】 地域活性化　地域社会のつながり　経済発展　交流促進 【施策の展開】 ○ スポーツ大会・合宿等の誘致を通じた地域経済の活性化 ・ 長野県の特色を活かしたスポーツ大会・合宿等を誘致し、スポーツを通じた交流促進等により地域活性化を図ります。 ○ スポーツツーリズムの振興	【１ スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化】 【５年後の目指す姿】 □ 長野県スポーツコミッションが核となり、全国大会・世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、スポーツを通じた誘客による地域経済の活性化が図られている。 （新規） 【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】 地域活性化　地域社会のつながり　経済発展　交流促進 【施策の展開】 ○ スポーツ大会・合宿等の誘致を通じた地域経済の活性化 ・ 長野県の特色を活かしたスポーツ大会・合宿等を誘致し、スポーツを通じた交流促進等により地域活性化を図ります。 （新規）

改　正　案	現　　行
・日本アルプスの山々、千曲川や犀川などの信濃川水系の河川や諏訪湖・野尻湖などの湖沼といった、本県ならではの地形・特色を活かしたアウトドアアクティビティのコンテンツ造成やＰＲにより、長野県への誘客を促進します。 ・長野県の景観を活かし、コンテンツとして自転車の活用による観光地域づくりを進め、長野県のサイクルツーリズムを Japan Alps Cycling ブランドとして構築し、広域的な周遊や長期滞在型観光を促進します。 ・市町村や索道事業者と組織する「スノーリゾート信州」プロモーション委員会において、県内スノーリゾートのプロモーションや将来のスキー人口確保に向けた取り組みを推進し、県内スキー場への誘客を図ります。 ・スキーやアウトドアアクティビティなどの体験学習メニューを活かした教育旅行やスポーツ合宿の誘致を推進します。 **○ セカンドキャリア等による雇用の創出** ・ 県内を拠点とした競技活動が続けられるよう、県内経済団体と連携し、アスリートの就職支援に取り組みます。	**（新規）**
【２ スポーツを通じた人々の交流促進・地域づくり】 **【５年後の目指す姿】** □ 山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために、日本全国・世界各地との交流が活発に行われている。 □ スポーツコミュニティの促進による住みやすい地域づくりがすすめられ、交流人口・関係人口拡大による、女性・若者にえらばれる地域となっている。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 交流促進　魅力発信　レガシー　異分野との連携 **【施策の展開】** **○ 国際大会等の開催を通じた人々の交流** ・ 長野冬季オリンピック・パラリンピックのレガシーを最大限に活かした国	**【２ スポーツを通じた人々の交流促進】** **【５年後の目指す姿】** □ 山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために、日本全国・世界各地との交流が活発に行われている。 **（新規）** **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 交流促進　魅力発信　レガシー　異分野との連携 **【施策の展開】** **○ 国際大会等の開催を通じた人々の交流** ・ 長野冬季オリンピック・パラリンピックのレガシーを最大限に活かした国

改　正　案	現　　行
際大会等を誘致し、世界の人々との交流や誘客を促進します。	際大会等を誘致し、世界の人々との交流や誘客を促進します。
○ オリンピック・パラリンピック開催を契機とした韓国・中国との交流の継続 ・ 東アジアで連続して開催されたオリンピック・パラリンピックを契機とした韓国・中国との交流をレガシーとして引継ぎ、スポーツを通じた両国との交流を更に発展させます。	**○ オリンピック・パラリンピック開催を契機とした韓国・中国との交流の継続** ・ 東アジアで連続して開催されたオリンピック・パラリンピックを契機とした韓国・中国との交流をレガシーとして引継ぎ、スポーツを通じた両国との交流を更に発展させます。
○ 信州ならではのスポーツの魅力発信 ・ 山岳スポーツやウィンタースポーツをはじめ信州で親しまれているスポーツの魅力を発信するとともに、より受け入れしやすい環境を整え誘客を促進します。 ・ 銀座ＮＡＧＡＮＯ等を活用して、信州ならではのスポーツの魅力発信を行います。	**○ 信州ならではのスポーツの魅力発信** ・ 山岳スポーツやウィンタースポーツをはじめ信州で親しまれているスポーツの魅力を発信するとともに、より受け入れしやすい環境を整え誘客を促進します。 ・ 銀座ＮＡＧＡＮＯ等を活用して、信州ならではのスポーツの魅力発信を行います。
○ 信州やまなみ国スポ・全障スポを通じた地域の活性化 ・ 信州やまなみ国スポ・全障スポの競技開催地において、当該地域の地域資源と合わせたスポーツイベントの開催等、魅力発信による地域活性化を図るとともに、大会終了後もレガシーとして地域のスポーツ文化が根付いていくような取組を支援します。	**○ 信州やまなみ国スポ・全障スポを通じた地域の活性化** ・ 信州やまなみ国スポ・全障スポの競技開催地において、当該地域の地域資源と合わせたスポーツイベントの開催等、魅力発信による地域活性化を図るとともに、大会終了後もレガシーとして地域のスポーツ文化が根付いていくような取組を支援します。
・ 2028年信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機として、豊かな自然環境、美しい景観など数々の長野県の訪れる魅力を県民一人ひとりが見つめ直し、県内外に発信するとともに、全国から訪れる数多くの来県者を温かいおもてなしの心で迎え、一人でも多くの方に長野県のファンとなっていただける取り組みを実施します。	**（新規）**
・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機として、長野県の地で育った選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、将来にわたり本県のスポーツ振興を支える好循環の形成に努めます。（再掲）	**（新規）**
○ 総合型地域スポーツクラブによるコミュニティ創出 ・ 子どもから高齢者まで（多世代）、多様なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの思考・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持つ、総合型地域スポーツクラブを創出	**（新規）**

改　正　案	現　　行
することにより、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を造成します。	
○ プロスポーツ観戦を通じた交流人口・関係人口の拡大 ・ プロスポーツ観戦や県内のスポーツ施設を活用して、スポーツを“みる”機会を増やすとともに、スポーツイベントを通じて長野県を訪れる旅行者に長野県の魅力をＰＲし、交流人口の拡大を目指します。	**（新規）**
○ 女性・若者から選ばれるスポーツで元気な地域づくり ・女性が身近な地域で、年齢、興味・関心に応じて、日常的にスポーツに取り組める機会の充実に向け、市町村や総合型クラブ等と連携し、働く女性や子育て世代に対応した週休日・夜間のスポーツ教室の設定、子どもと一緒に参加できるプログラム、女性のニーズに即した健康・体力増進等の運動プログラムの多様化を促進します。（再掲） ・県内の女子プロチームと連携し、スポーツ体験会の促進や、女性アスリート特有の健康問題の理解促進など、女性がスポーツに親しめる環境づくりを行います。	**（新規）**
【３ プロスポーツとの連携・協働の推進】 **【５年後の目指す姿】** □ プロスポーツと連携・協働した事業が盛んに行われ、地域振興につながっている。 □ プロスポーツとの連携により、「みる」ことの相乗効果により、スポーツ参加率の増加、経済活性化が図られている。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 感動・一体感　他者を尊重し協働する精神　地域活性化　魅力発信 **【施策の展開】** **○ プロスポーツとの連携事業の推進** ・ 「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定*」を締結したプロスポ	**【３ プロスポーツとの連携・協働の推進】** **【５年後の目指す姿】** □ プロスポーツと連携・協働した事業が盛んに行われ、地域振興につながっている。 **（新規）** **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 感動・一体感　他者を尊重し協働する精神　地域活性化　魅力発信 **【施策の展開】** **○ プロスポーツとの連携事業の推進** ・ 「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定*」を締結したプロスポ

改　正　案	現　　行
ーツチーム等と連携・協力し、その知名度・発信力を活かしたスポーツの振興、青少年の健全育成、人権啓発活動、県民の健康増進及び観光振興など地域の活性化を図る取組を実施します。 ・ プロスポーツチームが実施する地域の発展に寄与する社会貢献活動等について広く情報発信します。	ーツチーム等と連携・協力し、その知名度・発信力を活かしたスポーツの振興、青少年の健全育成、人権啓発活動、県民の健康増進及び観光振興など地域の活性化を図る取組を実施します。 ・ プロスポーツチームが実施する地域の発展に寄与する社会貢献活動等について広く情報発信します。
○ トップアスリートとの連携による発信力強化 ・ 県内トップアスリートの活躍を広く発信し、県民のスポーツへの関心度を高めることで、スポーツへの参画意欲を高めることを目指します。 ・プロスポーツ団体等との連携により、長野の食や特産品・伝統工芸品をはじめ、地域の祭りや文化、歴史、温泉、自然などを紹介し、本県の文化的な魅力ついても国内外に発信します。	**（新規）**
○ プロスポーツを通じた県民のスポーツ参画率向上 ・県内の女子プロチームと連携し、スポーツ体験会の促進や、女性アスリート特有の健康問題の理解促進など、女性がスポーツに親しめる環境づくりを行います。（再掲） ・ 中学生期の部活動の地域移行などにおいて、プロスポーツチームと協働し、指導者の確保や、指導力の向上を図ります。	**（新規）**
○ プロスポーツ観戦を通じた交流人口・関係人口の拡大 ・プロスポーツ観戦や県内のスポーツ施設を活用して、スポーツを“みる”機会を増やすとともに、スポーツイベントを通じて長野県を訪れる旅行者に長野県の魅力をＰＲし、交流人口の拡大を目指します。（再掲）	**（新規）**
【４ 運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現】 **【５年後の目指す姿】** □ フレイルの増加や地域コミュニティの弱体化等、様々な社会問題へスポーツの力が多面的活用され、課題解決に寄与している。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 生きがい　健康増進　健康長寿　魅力発信	**【４ 運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現】** **【５年後の目指す姿】** □ フレイルの増加や地域コミュニティの弱体化等、様々な社会問題へスポーツの力が多面的活用され、課題解決に寄与している。 **【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】** 生きがい　健康増進　健康長寿　魅力発信

改　正　案	現　　行
【施策の展開】 ○ 運動・スポーツを通じた健康づくりの推進 ・ 「信州ACE プロジェクト*」を推進し、運動の重要性や手軽に毎日取り組める運動の具体的手法を広めることにより、生活習慣病予防を始めとした県民の健康づくりを推進します。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツに親しむ人口の拡大を図り、県民の健康づくりを推進します。（再掲） ・ 働く世代の健康増進のため、企業等と連携し、スポーツ機会の拡充を図ります。（再掲） ・ 運動時間が不足しがちな子育て世代が心身の健康を保つための運動など、ニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。（再掲） ・ 運動不足になりがちな働く世代が、生活習慣病予防のため、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診・保健指導の際の意識啓発を推進します。（再掲） ・ 体を動かす楽しみやフレイル・介護予防の観点から、高齢者がスポーツ活動に積極的に取り組めるよう支援します。また、高齢者の身近な場所での運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。（再掲） ○ スポーツプログラムを活用した健康経営企業プログラムの促進 ・「信州ＡＣＥプロジェクト」の取り組みとして、働き盛り世代の運動習慣定着を目的とし、「信州ウォーキング大賞」等を実施し、健康経営に繋がる取り組みを推進して行きます。	【施策の展開】 ○ 運動・スポーツを通じた健康づくりの推進 ・ 「信州ACE プロジェクト*」を推進し、運動の重要性や手軽に毎日取り組める運動の具体的手法を広めることにより、生活習慣病予防を始めとした県民の健康づくりを推進します。 ・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツに親しむ人口の拡大を図り、県民の健康づくりを推進します。（再掲） ・ 働く世代の健康増進のため、企業等と連携し、スポーツ機会の拡充を図ります。（再掲） ・ 運動時間が不足しがちな子育て世代が心身の健康を保つための運動など、ニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。（再掲） ・ 運動不足になりがちな働く世代が、生活習慣病予防のため、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診・保健指導の際の意識啓発を推進します。（再掲） ・ 体を動かす楽しみやフレイル・介護予防の観点から、高齢者がスポーツ活動に積極的に取り組めるよう支援します。また、高齢者の身近な場所での運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。（再掲） （新規）
【５ スポーツを通じた共生社会づくり】 【５年後の目指す姿】 □ スポーツを通じ、県民の障がいに対する理解が深まり、障がいのあるなしにかかわらず、個性を尊重する共生社会が実現している。 【活用し更に高めていく主なスポーツの力・価値】 共生社会　他者を尊重し協働する精神　地域社会のつながり　交流促進	（新規）

改　正　案	現　　行
【施策の展開】	
○ 障がい者スポーツに対する理解促進と運動機会の充実	**（新規）**
・ 障がいのある子どもがスポーツをする際に、障がいの程度や種類に応じて必要な配慮がなされるよう、関係者や保護者の障がいに対する理解を促進します。（再掲）	
・ 障がいのある子どもとない子どもが一緒にスポーツできる環境づくりを推進し、共生社会の実現を加速させます。（再掲）	
・ 小中学生・保護者を対象に、障がい者スポーツの体験会を開催し、障がい者スポーツや障がい者の社会参加に関する理解促進を図ります。（再掲）	
・スポーツ推進委員、スポーツ指導員や総合型地域スポーツクラブ関係者など、一般スポーツから障がい者スポーツへの支援体制を構築し、連携を強化します。	（新規）
○ パラウェーブＮＡＧＡＮＯプロジェクトによる推進	
・ 県内の学校に対し、同プロジェクトのパラ学（県独自のコンテンツであるパラスポーツ体験型授業）を提供し、共生社会づくりを推進します。（再掲）	
・ 特別支援学校等の児童生徒と障がいのない児童生徒が運動会などで交流するプログラムを提案し、インクルーシブ教育を促進します。	（新規）
・ 障がいの有無にかかわらず参加できるスポーツ大会やイベント会場等でのパラスポーツ体験会等を開催し、共生社会づくりを推進します。（再掲）	
・ 包括連携協定に基づく企業やプロスポーツチームとの連携によりイベント等を開催し、県民に向け発信し、取組を理解してもらうことで、共生社会づくりを推進します。	（新規）
○ 信州やまなみ国スポ・全障スポを契機とした推進	
・ 2028 年の信州やまなみ国スポ・全障スポの一体的な開催を契機として、障がい者の社会参加の促進と社会の障がい理解を促進するとともに、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じた交流を拡大するなど、誰にでも「居場所」と「出番」があり、多様性を尊重する共生社会づくりを力強く後押しします。	（新規）
○ ユニバーサルツーリズムの推進	**（新規）**

<table>
<tr><th>改　正　案</th><th>現　　行</th></tr>
<tr><td>・人材育成をはじめとした受入環境整備を推進することにより、年齢や障がいの有無にかかわらず誰もが一緒に旅行を楽しめるユニバーサルツーリズムを推進し、共生社会の実現に取り組みます。
・障がい者スポーツの振興を通じ、ユニバーサルツーリズムの更なる推進に取り組みます。</td><td></td></tr>
<tr><td>【目標・指標】　＜基本目標４＞スポーツの持つ力の多面的活用
◆達成目標
<table><tr><th>指標名</th><th>現状</th><th>目標（令和９年度）</th><th>備考</th></tr><tr><td>体験型教育プログラム「パラ学」（実施クラス数）</td><td>〇〇クラス
（令和３～５年度累計）</td><td>〇〇クラス
（令和３～９年度累計）</td><td>・説明文章</td></tr></table>
◆ 目標達成に向けた分析の参考とする指標
・スキー場における延べ利用者数
・スポーツ合宿等受入実態調査
・スキー及びスキー以外のスポーツを来訪主要目的とした学習旅行の延べ児童・生徒数
・冬季スポーツを通じた中国とのジュニア選手交流競技数
・スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定に基づく実施事業数
・健康づくりのために運動の取組を行っている者の割合</td><td>【指標】　＜基本目標４＞スポーツの持つ力の多面的活用

◆ 目標達成に向けた分析の参考とする指標
（新規）
（新規）
（新規）

・冬季スポーツを通じた中国とのジュニア選手交流競技数
・スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定に基づく実施事業数
・健康づくりのために運動の取組を行っている者の割合
（新規）</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Ｐ38～Ｐ41</td><td>Ｐ38～Ｐ41</td></tr>
<tr><td>＜用語解説＞
女性アスリートの三主徴
激しいトレーニングを続けている女性アスリートは、「エネルギー不足」「無月経」「骨粗鬆症」のリスクがあり、これらを「女性アスリートの三主徴」といい、女性アスリートの健康管理やコンディショニングにおいて重要な問題となっている。

長野県地域クラブ活動推進ガイドライン
「長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動活動指針」の趣旨を踏まえ、</td><td>＜用語解説＞
（新規）

（新規）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>改　正　案</th><th>現　　行</th></tr>
<tr><td>新たな地域クラブ活動への移行を推進することを目的として、本ガイドラインを策定。

長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針
令和４年（2022年）12月に国が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を踏まえ、学校部活動の在り方を見直し、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」という意識の下、地域におけるスポーツ・文化芸術環境を整備し、可能な限り早期に、地域において、子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化芸術に親しめる環境を構築することや、教員の働き方改革を推進し、学校教育の質を向上させることを目的に令和６年（2024年）３月策定。</td><td>長野県中学生期のスポーツ活動指針
心身の成長過程にある中学生期にとってのスポーツ活動が、「スチューデント・ファースト」（学習者本位）の精神に基づく、適切で効果的な活動となることを目指して、平成26年（2014年）2月に策定された長野県独自の指針。スポーツ庁が平成30年（2018年）３月に示した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を踏まえ、平成31年（2019年）2月改定。</td></tr>
<tr><td>Ｐ42～Ｐ43</td><td>Ｐ42～Ｐ43</td></tr>
<tr><td>第３次長野県スポーツ推進計画策定までの経過

<table>
<tr><td rowspan="6">R6</td><td>R6.8.7</td><td>長野県スポーツ推進審議会①</td><td>追加の「施策の展開」検討</td></tr>
<tr><td>R6.9.12</td><td>長野県スポーツ推進審議会②</td><td>計画原案の検討</td></tr>
<tr><td>R6.X.XX</td><td>長野県スポーツ推進審議会③</td><td>計画最終案の協議</td></tr>
<tr><td>R6.X.XX
～
R6.X.XX</td><td>県民意見公募
(パブリックコメント)</td><td>計画案について県民意見を公募</td></tr>
<tr><td>R6.X.XX</td><td>県教育委員会定例会</td><td>計画原案の検討</td></tr>
<tr><td>R6.X.XX</td><td>計画の決定</td><td></td></tr>
</table></td><td>第３次長野県スポーツ推進計画策定までの経過

（追加）</td></tr>
<tr><td>長野県スポーツ推進審議会委員/専門委員名簿

○令和６年度長野県スポーツ推進審議会①～③
<table>
<tr><th>職　名</th><th>氏　名</th><th>現職等</th></tr>
<tr><td>専門委員</td><td>高畠　靖明</td><td>一般社団法人長野県ITコラボレーションプラットフォーム</td></tr>
<tr><td>専門委員</td><td>中村　実彦</td><td>長野県旅館ホテル組合会会長
長野県観光振興審議会</td></tr>
</table></td><td>長野県スポーツ推進審議会委員/専門委員名簿

（追加）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">改　正　案</th><th>現　　行</th></tr>
<tr><td>専門委員</td><td>箱山　愛香</td><td>ロンドン・リオ五輪代表</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>専門委員</td><td>マキナリ―浩子</td><td>株式会社エー・トゥー・ゼット相談役
長野県サッカー協会 会長</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
</table>